

第一條 從來ノ市町村立尋常小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ左ノ各款ニ依リ處分スヘシ

一 新ニ尋常小學校ノ校數并位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ其位置新ニ指定セラレタル市町村立尋常小學校ノ位置ト同一ナルモノハ之ヲ繼續維持スヘシ

二 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ不用ニ屬スヘキモノハ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備新ニ整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

三 兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第二款ノ例ニ依ルヘシ

四 新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレ及兒童教育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第一款第ニ款ノ例ニ依ルヘシ

五 聯合町村ヨリ成立スル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其區域ノ學齡兒童教育ノ事業ヲ引續クハ市町村、町村學校組合又ハ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ニ於テ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

第二條 市町村ニ於テ設置スル從來ノ高等小學校ハ其市町村會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ其市町村ニ於テ同令第三十六條ノ手續ヲ經タル上之ヲ繼續維持スルコトヲ得

第三條 聯合町村ヨリ成立スル高等小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル高等小學校設置區域ニ於テ設置スル高等小學校ハ其町村聯合會又ハ學區會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ尙六箇月以内之ヲ存續スルコトヲ得

第四條 第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル管理監督ノ事務ハ從來ノ職員ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ擔任スヘシ

第五條 第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル費用及第四條ノ事務ニ係ル費用ハ從來ノ小學校設置區域ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第六條 第一條第五款及第三條ニ依リ一時存續シタル小學校ニ係ル事務引續方等ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定スルコトヲ得

第七條 本令ノ規程ニ依リ難キ場合ニ在テハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ經テ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○市町村立小學校授業料ニ關スル件 明治三十年十一月 勅令第四百七號

朕市町村立小學校授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村立尋常小學校授業料ハ一箇月金三拾錢以内トシ土地ノ情況ヲ量リ地方長官之ヲ定ム

第二條 高等小學校ノ授業料ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 特別ノ規定アルモノノ外小學校授業料ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附則 第四條 本令施行ノ期限ハ文部大臣之ヲ定ム(三十一年勅令第六十六號ヲ以テ改正)

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第四十四條第六項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

○市町村立尋常小學校授業料免除方明治二十六年五月勅令第三十四號

朕市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ノ授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市町村ハ左ノ場合ニ限リ市町村會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケ尋常小學校ニ就學スル全員又ハ或學級ノ兒童ノ授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

一 學校基本財産ノ收入又ハ寄附金ニ依リ設備及維持ニ供給スルニ足ルトキ

二 設備及維持ニ供給スル爲ニ市町村ノ資力ニ對シ市町村稅ヲ過度ニ賦課スルニ至ラサル時

第二條 府縣知事ハ市町村會ノ議決前條ノ範圍ヲ超エ又ハ將來ニ尋常小學校ノ擴張ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ許可セサルヘシ

○市町村立小學校授業料免除方明治二十九年二月勅令第五號

朕市町村立小學校授業料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニシテ左ニ掲クル者ニ對シテハ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セサルモノトス

一 軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者及第四十條ニ掲ケタル者ニシテ第二十七條第一ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

二 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹

三 明治二十七年勅令第六十四號第一條第一項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナキモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其ノ同籍内ニ在ル弟妹ニ對シ前項ヲ適用ス

第二條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條又ハ官吏恩給法第三條ニ該當スル者又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者又ハ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ市町村會ノ議決ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第三條 本令ニ依リ減額シ又ハ徵收セサル授業料ニシテ已ニ納付済ノモノハ還付セサルモノトス但市町村會ニ於テ還付ノ議決ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス

○市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程明治二十五年四月勅令第四十七號

朕市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程

第一條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ設置小學校ニ關スル府縣知事ノ負擔並郡視學學務委員區長及其代理者ニ關スル條規ヲ除キ其他ノ條規ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ左ノ例ニ依リ之ヲ施行ス

一 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ノ規定ニ依リ難キ場合アルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

二 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ郡長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ市長町村長若クハ市參事會ノ職務ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第二條 區町村ハ北海道廳長官府縣知事ノ指定スル區域及位置ニ於テ一小學校若クハ數小學校ヲ設置スヘシ

第三條 本令施行ノ時期ハ北海道廳長官府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第四條 明治十九年勅令第十四號小學校令其他本令ニ抵觸スル成規ハ本令施行ノ地方ニ於テ其

施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員ニ關スル件明治二十七年三月勅令第十一號

朕市制町村制ヲ施行セサル地方ノ學務委員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ小學教育事務ノ爲ニ

○小學校設置區域ニ學務委員ヲ置クコトヲ命スルコトヲ得

第二條 學務委員ニ關スル費用ハ關係區域ノ負擔トス

第三條 學務委員ノ組織任免及其ノ他必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受ク

○市町村立小學校教育費國庫補助法明治三十三年三月勅令第六十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ市町村立小學校教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教育費國庫補助法

第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲メ國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條 前條ニ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第二條ノ補助金ハ學齡兒童數及就學兒童數ノ和ニ比例シテ之ヲ北海道廳及府縣ニ配賦ス
北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其ノ他ハ之ヲ府縣ニ下付スヘシ

附則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニハ
同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ
此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

○中學校令 明治三十二年二月
勅令第二十八號

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中學校令

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ
文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ府縣ニ中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得

三十二年文部
省令第三號
以テ中學校
制及設備規
則ヲ定ム

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區合又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學校教育

ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコ
トヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リ

タル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ
定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經ザル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ
經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

三十二年文部
省令第十四號
以テ中學校
ノ設置廢止規
則ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタ名ニ免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定
ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セザル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十四條 公立中學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官
之ヲ定ム

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得
授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ
於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 本令ノ規定ニ依リテ中學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分枝ニ於テハ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令
施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十一條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ専修科
ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ハ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス
他ノ法令中尋常中學校トテルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

○中學校高等女學校「技藝學校」設置ノ爲メ町村學校組合設置方明治二十六年五月
勅令第三十三號
朕尋常中學校高等女學校實業學校設置ノ爲メ町村學校組合ヲ設クルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

第一條 町村ハ「尋常」中學校高等女學校又ハ「技藝學校」ヲ設置センカ爲メ町村制第百十六條第
一項ニ依リ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

第二條 前項ノ町村學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制第百十八條ニ依ル
第二條 前條ノ場合ニ於テ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

○實業學校令明治三十二年二月
勅令第二十九號
朕實業學校ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三十二年文部
省令第八號
以テ工業學校
規程ヲ定ム
三十二年文部
省令第九號
以テ農業學校
規程ヲ定ム
三十二年文部
省令第十號
以テ商業學校
規程ヲ定ム

第十類 中學校高等女學校技藝學校設置ノ爲メ町村學校組合設置方 實業學校令 九百五十九

三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號
三十二年文部省令第十一號

實業學校山林學校獸醫學校及水産學校等ハ農業學校ト看做ス
徒弟學校ハ工業學校ノ種類トス

第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ道廳府縣立實業補習學校ハ他ノ道廳府縣立實業學校ニ附設スル場合ニ限ル

第四條 前條ノ實業學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第五條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 工業學校農業學校商業學校商船學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ實業補習學校ノ設置廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 實業學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十條 實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 公立實業學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

官之ヲ定ム

第十二條 公立實業補習學校職員ノ名稱待遇ハ公立小學校ノ例ニ依ル

第十三條 實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十七條 本令ハ官立學校ニ適用セシム

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ



○高等女學校令明治三十二年二月勅令第三十一號

高等女學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等女學校令

第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

三十二年文部省令第十四號
ヲ以テ高等女
學校ノ設置廢
止規則ヲ定ム

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應シ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育

ノ施設上妨ナキ場合ニ限り高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ地

方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコトヲ

得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ伸縮スルコトヲ得

高等女學校ニ於テハ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ

卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置クコ

トヲ得

高等女學校ニ於テハ其卒業生ニシテ某學科ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

第十二條 高等女學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長

之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認

可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣

ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方

長官之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコト

ヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ

於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

三十二年文部省令第十四號
ヲ以テ高等女
學校ノ設置廢
止規則ヲ定ム

第十八條 本令ノ規定ニ依ラタル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲メニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

○私立學校令 明治三十二年八月
勅令第三百五十九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ私立學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私立學校令

第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條 私立學校ヲ設立セントスル者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス

一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復讐シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復讐セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者

五 教員免許狀奪取ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

六 性行不良ト認ムヘキ者

第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス但シ前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試験ヲ施スコトアルハ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ其ノ與ヘタル認可

三十二年文部
令第三百十八
號ヲ以テ本令
施行規則ヲ
定ム

ヲ取消スルコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ公立學校ニ代用スル私立小學校ヲ除ク外學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第二十一條及第二十二條ニ依リ市町村長ノ許可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之ヲ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

- 一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ
 - 三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ
 - 四 第九條ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ
- 第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十二條 第十一條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲ササル者及第二條第二項ノ規定ニ違反シ

タル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ニ依リ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員トシテ在リタル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セス

○教員免許令明治三十三年三月勅令第百三十四號
朕教員免許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員免許令

- 第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス
- 第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコト得ス
 - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者
 - 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサ

ル者

- 第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ
- 第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
- 前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ
- 第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ
- 第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス
- 第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用非之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附則

- 第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

三十二年文部省令第六號ヲ以テ學校設置ノ規程ヲ定ム

三十二年文部省令第七號ヲ以テ學校設置ノ規程ヲ定ム

○公立學校ニ學校醫ヲ置ク明治三十一年二月勅令第二號

朕公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク

地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未滿ノ町立學校ニハ當分ノ内學校醫ヲ置カサルコトヲ得

第二條 學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス

第三條 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得

第四條 學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ

第五條 學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第六條 本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ町立學校ト同視シ沖繩縣ノ間切及島ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス

第七條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規定ハ島司郡長(北海道ニ在リテハ支廳長)區長戶長又ハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

第八條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○實業教育費國庫補助法明治二十七年六月法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル實業教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業教育費國庫補助法

第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲ニ國庫ハ毎年度金二十五萬圓ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スヘシ(三十二年法律第十八號ヲ以テ十五萬圓ニ改ム)

第二條 公立ノ工業農業商業商船學校、徒弟學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育ニ效益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ學校ニ補助金ヲ交付スヘシ(三十二年法律第十八號ヲ以テ商業ノ下ニ商船ノ二字ヲ加フ)

監督官廳ノ認可ヲ經タル農工商組合ニ於テ設立シタル實業學校ハ文部大臣ノ特別ノ認定ニ依リ前項ニ準スルコトヲ得(三十二年法律第十八號ヲ以テ地方ヲ監督ニ改ム)

第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以内ニ限ル

第四條 補助ヲ受クヘキ學校ハ文部大臣ノ認可シタル學則ニ依リ及同大臣ノ定ムル必要ノ條件ヲ充タスモノニ限ル

第五條 此法律ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助年其ノ學校經費ヲ繼續支出スルノ義務

アルモノトス

第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖補助ヲ廢止若ハ停止スルコトヲ得

第七條 第二條ニ掲クル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部大臣ハ第一條ニ掲クル金額ヨリ八分ノ一以内ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得(三十二年法律第十八號ヲ以テ十分ノ一ニ減額スルコトヲ得)

第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

○

○教育基金令明治三十二年十一月勅令第四百三十五號

朕教育基金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令

第一條 教育基金元資金ヨリ生スル收入ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 文部大臣ハ教育基金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歳出トシテ毎年度豫算ニ於テ定マリタ

ル金額ヲ前年十二月三十一日現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道廳及府縣ニ配當ス

第三條 前條ノ配當金ハ沖繩縣ヲ除クノ外府縣ニ下付スヘシ

府縣ハ前項ノ下付金ヲ以テ其ノ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

北海道廳及沖繩縣ノ配當金ハ文部大臣之ヲ管理ス

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ第八條ノ場合ヲ除クノ外市町村立尋常小學校ノ校地校舍ヲ設備スル費用ニ充ツル爲市制町村制ヲ施行シタル地方ニ於テハ之ヲ市町村町村組合町村學校組合ニ貸付シ其ノ他ノ地方ニ於テハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

第六條 貸付金額ハ市町村町村組合町村學校組合ノ申請ニ依リ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ七以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム

貸付金ノ償還期間ハ十箇年以内トシ年賦ヲ以テ之ヲ償還セシムヘシ

貸付金ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附スヘシ

第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム

第八條 府縣ハ毎年配當ヲ受ケタル金額十分ノ三以内ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ市町村立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得

第九條 府縣知事ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十一條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 教育基金中本令施行以前ニ生シタル利子額ニ相當スル金額ノ使用方法ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○寄附財産ヲ以テ設立スル官立公立學校ニ關スル件明治三十三年三月勅令第三百三十六號

朕寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 學校ヲ設置維持スル爲メ財産ヲ國府縣郡又ハ市町村ニ寄附シ學校ノ設置維持ヲ願出タル者アルトキハ國府縣郡又ハ市町村ハ其ノ寄附財産ヲ受ケ寄附者ノ指定シタル學校ヲ設置維持スルコトヲ得

第二條 本令ニ依リ設置スル公立學校ノ會計ハ特別會計ト爲スヘシ

第三條 本令ニ依リ設置スル學校ハ寄附者ノ志望ニ依リ名稱ヲ付スルコトヲ得

第四條 本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費豫算ニ關シテハ調製前寄附者又ハ其ノ相續人ノ意見ヲ開クヘシ

第五條 本令ニ依リ設置シタル學校ニ於テハ寄附者又ハ其ノ相續人ニ特別ノ關係アル生徒ニ對シ試験料入學料又ハ授業料ヲ減額シ又ハ免除スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ一般會計ヨリ補足ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 國府縣郡又ハ市町村ハ本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費中職員ノ俸給ニ要スル費用

ニ充ツル爲一般會計ヨリ補足ヲ爲スコトヲ得

前項ノ補足金ハ毎年度經費中寄附財産ヲ以テ支辨スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 本令ニ依リ設置シタル學校ヲ廢止シタル場合ニ於テ寄附者又ハ其ノ相續人アルトキハ殘餘財産ヲ之ニ還付スヘシ

第八條 前數條ノ規定ハ幼稚園圖書館及博物館ニ準用ス

附則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 諸學校通則ハ之ヲ廢止ス但シ同令第一條ニ依リ設置シタル學校及書籍館ハ仍一箇年以内存續スルコトヲ得

第十一條 前條但書ニ依リ存續シタル學校及書籍館ハ其ノ寄附者ニ於テ前條但書ノ期間内ニ本令ノ規定ニ依リ更ニ出願シタルトキハ繼續ト看做スコトヲ得

○學位令明治三十一年十二月勅令第三百四十四號

朕學位令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

學位令

第一條 學位ハ法學博士、醫學博士、藥學博士、工學博士、文學博士、理學博士、農學博士、林學博士及獸醫學博士ノ九種トス

第二條 學位ハ文部大臣ニ於テ左ニ掲クル者ニ之ヲ授ク

一 帝國大學大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者又ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ帝國大學分科大學教授會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認めタル者

二 博士會ニ於テ學位ヲ授クヘキ學力アリト認めタル者

帝國大學分科大學教授ニハ當該帝國大學總長ノ推薦ニ依リ文部大臣ニ於テ學位ヲ授クルコトヲ得

第三條 學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ博士會ノ議ヲ經テ文部大臣其ノ學位ヲ褫奪ス

第四條 明治二十年勅令第十三號學位令ニ依リ授與シタル學位ハ本令ノ學位ト同一ノモノトス

第五條 本令ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

○博士會規則 明治三十一年十二月勅令第三百四十五號

朕博士會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

博士會規則

第一條 博士會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條第一項第二號及第三條ニ規定セル學位ノ授與視察ニ關スル事項ヲ審查ス

第二條 博士會ハ法學博士會醫學博士會農學博士會工學博士會文學博士會理學博士會農學博士會林

三十二年文部省令第一號ヲ以テ本令ノ細則ヲ定ム

學博士會及獸醫學博士會ノ九種トシ當該博士ヲ以テ組織ス

第三條 博士會ハ文部大臣ニ於テ必要アリト認めタルトキ又ハ會長ヨリ具申アリタルトキ文部大臣

之ヲ召集シ其ノ議決スルニ當リハ多數ノ出席ヲ得ルニ至ラザレバ議決スルコトヲ得ス

第四條 學位授與ノ議事ハ出席會員三分ノ二以上學位視察ノ議事ハ出席會員四分ノ三以上ノ多數ニ

依リ之ヲ決ス

前項ノ議決ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第五條 博士會會長ハ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

會長ハ會務ヲ總管シ議事ヲ整理シ其ノ議決ヲ文部大臣ニ具申ス

第六條 各博士會ヲ通シテ幹事一人ヲ置キ文部省高等官中ニ就キ文部大臣之ヲ命ス

幹事ハ各會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第七條 各博士會ヲ通シテ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ各會長及幹事ノ命ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第八條 博士會員ニハ旅費日當等ヲ給與セシ

第九條 博士會ノ議事規則ハ各博士會ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第十條 同種ノ博士七名ニ充タサル間當該博士會ノ職務ハ東京帝國大學評議會ニ於テ之ヲ行フ

専ら學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添へ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作人又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作人又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作人又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

第六條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スルハ發行者ヲ兼スルコトヲ得

第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條 一タビ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第二條ニ依ルヘシ

第十二條 演說者ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同シク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ノ著作人責ニ任セス

若ハ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ノ著作人責ニ任セス

若ハ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ノ著作人責ニ任セス

若ハ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ノ著作人責ニ任セス

公開の席に於て爲シタル演説ハ外ハ講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルニ得テ不得トシ本項ニ違テ者ハ出版法ニ依リ其ノ責ニ任セシムルニ關シテハ前條ノ第十三條ノ二種以上ノ著作若シテ演説講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書物爲メト編輯編纂者若シテ著作者若シテ編纂者ノ看做スルニ依リテ之ヲ行フ者ハ罰金ニ處スルニ可キトシ

前條第一項ノ未段及第二項第三項ハ本條ニ適用スベシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スベシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者若シテ著作者ト看做スベシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若シテ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若シテ賞恤スルハ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ヲ付シタル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シテ公衆ニ知ルル官廳文書及官廳會議事ハ當該官廳ノ許諾ヲ得ルニ非サレバ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聴ヲ禁ズタル公會會議事ノ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者若シテ認ムル文書圖書ヲ出版シタル者ハ其ノ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刊版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル者ハ其ノ内務大臣若シテ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關シテ文書圖書ハ當該官廳ノ許諾ヲ得ルニ非テハ之ヲ出版スルコトヲ得

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲メシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ノ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セズ其ノ之ヲ記載スルモノ實ヲ以テセザル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セズ若シテ之ヲ記載スルモノ實ヲ以テセザル者ハ罰金ニ處ス

第二十六條 十政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂スルニシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ著作者、發行者、印刷者ハ罰金ニ處ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ罰金ニ處ス

輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ルル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作
 發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ
 未タ發賣頒布セザル文書圖書ハ之ヲ沒收ス
 第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ剽版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押
 フルコトヲ得
 第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ル
 第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除ク外
 裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明ヲ許スモト判得者之ヲ
 證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ
 第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減刑ノ再犯加重ノ數罪併發ノ例ヲ用テ之ニ
 第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス
 第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務
 大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非テ
 レハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十二年內務
 省令第二十八
 號ヲ以テ著作
 權法ニ關スル
 規程ヲ定ム
 第三十九年法律
 第二十七號
 第九條ニ載ス

第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ
 此ノ法律ニ依ル
 〇著作權法明治三十二年三月
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 著作權法
 第一章 著作ノ權利
 第二章 僞作
 第三章 罰則
 第四章 附則
 著作權法
 第一章 著作ノ權利
 第一條 文書演述圖畫彫刻模型寫真其他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作人ハ其ノ
 著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス
 文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ其ノ範圍ヲ包含ス
 第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作権ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作権ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作権ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作権ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ

著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ

著作権ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅ス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權消滅スル期間ハ國語ノ翻譯權ハ其ノ國語ノ翻譯權消滅スル日ヨリ起算ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

一 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事

二 公開セル裁判所ノ議會并政談集會ニ於テ爲タル演述

第十三條 無名又ハ變名著作物ノ發行又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ヲ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作権ハ各著作者ヲ共有ニ屬ス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分擔シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ

第十一條 著作權法

掲クルコトヲ得ス

第十四條 數多人著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作權ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作權ニ屬ス

第十五條 著作權者ハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ得發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權者ハ登錄ヲ受クルニ非アレハ偽作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非アレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス無名又ハ變名著作物ノ著作權者ハ其ノ實名ヲ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作權者ノ同意ナクシテ其ノ著作權者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改題スルコトヲ得ス

第十九條 原著物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス
翻譯權ノ消滅シタル著作物ニ關シテハ前項ノ翻譯者ハ他人カ原著物ヲ翻譯スルコトヲ妨クルコトヲ得ス

第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作權者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス
前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス
第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依

三十二年內
命令第二十
號ヲ以テ第
十七條ニ限
テ著作權者
不明ナル著
作物ニ準用
スル件定ム

リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アル者ヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限り本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 僞作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且機械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲メニ正當ノ範圍内ニ於テ抜萃編輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ

説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明ボスルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣願ハスルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ボシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對シテ損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作

者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作權者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其發行者ト推定ス

未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作權者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作權者ト推定ス

第三十六條 僞作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣願布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害

賠償ノ請求ヲ得

第九百九十五

第十一類 著作權法

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

第九百九十五

害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三章 罰則

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ違シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 虚偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章 附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セス

○著作權法施行ニ關スル件明治三十二年六月勅令第三百十四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ著作權法施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 著作權法第四十八條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者及同條第二項ニ依リ

其ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ヲ使用セントスル者ハ其ノ複製物及器械器具ニ明治三十二

年九月三十日迄ニ檢印ヲ申請スヘシ

複製ニ著手シタル場合ニハ著手ノ事實ヲ前項期間内ニ届出テ複製物發行前其ノ複製物ニ檢印

ヲ申請スヘシ

前項複製物ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ハ同時ニ檢印ヲ申請スヘシ

第二條 著作權法第四十九條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者ハ同法施行前ニ翻譯

シ又ハ翻譯ニ著手シタルコトヲ明治三十二年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

前項ノ複製物ヲ著作權法第四十九條第二項ノ期間満了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間

満了後二箇月以内ニ其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ

第三條 著作權法第五十條ニ依リ興行ヲ爲サントスル者ハ同法施行前既ニ興行シ又ハ興行ニ著

手シタルコトヲ明治三十二年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

三十二年内務
省令第二十六
號ニ依リ檢印
申請及届出等
ニ關スル件ヲ
定ム

第四條 檢印ヲ受ケタル器械器具ヲ用非テ複製シタル複製物ヲ著作權法第四十八條第二項ノ期
間満了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間満了後二箇月以内ニ其ノ複製物ニ檢印ヲ申請ス
ヘシ

第五條 他ニ移轉シ難キ器械器具ニ檢印ヲ申請スルトキハ檢印ヲ受ケタル爲費用ヲ前納シテ官吏
ノ出張ヲ請求スルコトヲ得

第六條 檢印ノ申請及届出ハ管轄地方廳ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ハ檢印ヲ爲シ又ハ届出ヲ受ケ其ノ目錄簿ヲ備置クヘシ

第八條 器械器具ニシテ檢印ヲ爲シ難キモノナルトキハ檢印ニ代フルノ方法ヲ用非ルコトヲ得

此ノ方法ニ關シテハ總テ本令中檢印ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ虚偽ニ依リ檢印ヲ爲ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

虚偽ノ届出又ハ虚偽ニ依リテ受ケタル檢印ハ届出又ハ檢印ノ初ニ遡リテ效力ヲ失フ

第十條 地方廳ハ届出ヲ受ケ若ハ檢印ヲ爲シタルトキ又ハ届出者ハ檢印ノ無効トナリタルトキ
ハ官報ヲ以テ告示スヘシ

○

○新聞紙條例(明治二十七年十二月)

沿革略記 明治元年四月新聞紙類官許ヲ經スシテ賣買スルヲ禁ス○同年六月新聞紙類官許ナクシテ上梓及販賣スル者ノ罰則ヲ定ム●二年六月拾字ニテ出版スルモノハ出版條例ニ依ラシム●六年十月第三百五十二號布告ヲ以テ新聞紙類目ヲ制定ス●八年六月第百一十一號布告ヲ以テ新聞紙類目ヲ廢シ更ニ新聞紙類目ヲ制定ス●十六年四月第十二號布告ヲ以テ前條例ヲ改正ス●二十年二月勅令第七十五號ヲ以テ前條例ヲ改正ス是レ現行法ナリ

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

- 第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ
- 第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 題號
 - 二 記載ノ種類
 - 三 發行ノ時期
 - 四 發行所及印刷所
 - 五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其届出ノ效ヲ失フモノトス

第六條 年齢滿二十年以上ニシテ帝國內ニ居住スル者ニアラサレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス(二十二年法律第百五號ヲ以テ改正)

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ返付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サヌ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メヌシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差留ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス 新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後テ其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ

ナシ又ハ正誤辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ

其超過ノ字數ニ付其新聞紙ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得
正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス
第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス
第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ
第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス 傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス
第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス
第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス
官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 (三十年法律第九號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

第二十條 (上)

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得 (三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ「拓殖務大臣」ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得 (三十年法律第九號ヲ以テ改正)

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ (三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實

ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セズ又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳 (東京府ハノ) 通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其額額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但昨稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ未項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(全)

第三十二條 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス(三十年法律第九號ヲ以テ追加)

第三十三條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルソ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第三十四條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第三十五條 第三十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ル

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第三十八條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第三十九條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十一條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十二條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十三條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十四條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十五條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十六條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十八條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第四十九條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十一條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十二條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十三條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十四條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十五條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十六條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十八條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第五十九條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十一條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十二條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十三條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十四條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十五條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十六條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十八條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第六十九條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第七十條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第七十一條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

○第十二類 軍事

○徵兵令 明治二十二年一月 法律第一號

沿革略記 明治元年閏四月諸藩ニ令シテ石高ニ應ジ兵ヲ徵ス●三年十一月府縣士民ニ拘ハラシ身體壯壯ノ者ヲ選ミ登
萬石ニ五人宛兵部省ニ提出スヘキコトヲ令シ徵兵規則ヲ定ム●五年十一月附シテ全國募兵ノ法ヲ設クルコト
ヲ告諭ス●六年一月陸軍省ヨリ徵兵令ヲ頒布ス●八年十一月附百六十二號布告ヲ以テ前キニ陸軍省布ク所ノ徵兵令ヲ
改正ス●十二年十月第四十六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス●十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス●二十二
年一月法律第一號ヲ以テ前令ヲ改正ス

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノト
ス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及ヒ國民兵役トス(二十八年法律第十五號ヲ以テ補充兵役ノ四字ヲ追加ス)

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四
箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス(二十八年法律第十五號ヲ以テ四箇月ノ三字ヲ追加ス)

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシ

テ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス(二十八法律第五十五號ヲ以テ本條追加)

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス(二十八法律第五十五號ヲ以テ第五條ヲ本條ノ如ク改メ第六條ヨリ第九條マテ順次繰下ク)

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第八條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ(二十八法律第五十五號ヲ以テ及補充兵ノ四字ヲ追加ス)

海軍現役兵及補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ(二十八法律第五十五號ヲ以テ及補充兵ノ四字ヲ追加ス)

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁(近衛團團三編入ノ壯丁ヲ除ク)ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス(二十八法律第五十五號ヲ以テ制限ヲ追加ス)

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム(二十八法律第五十五號ヲ以テ本條ヲ追加シ第十條ノ限ニ從フ)

第十二條 二十歳ニ至ラズト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學校及養育院ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若ハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及

第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其後部ヲ官給スルコトアルヘシ(二十八法律第五十五號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第十四條 一年志願兵ノ豫備後備後備年限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(二十八法律第五十五號ヲ以テ本條改正)

第十五條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(二十二法律第二十九號ヲ以テ本條改正シ二十六法律第四號ヲ以テ滿二十六歳ヲ加ヘ)

第十六條 前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム(二十二法律第二十九號ヲ以テ改正)

第十七條 第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷去ル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズ

シテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限リニ在ラス(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十六年法律第四號二十八號法律第十五號ヲ以テ條中改正ス)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平時ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス(二十八年法律第十五號ヲ以テ後備兵ノ三字ヲ追加ス)

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補缺ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補缺ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第一補充兵ハ平常ニ在テ百五十日以内教育ノ爲メ之ヲ召集ス其他勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ(二十八號法律第十五號ヲ以テ次項トモ追加シ第十五號ヲ刪除シ第十六號ヲ第十八號ニ改メ第十九號以下第二十四號ヲ順次繰下ク)

第二補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫
第十九條 兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル
第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム
第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

二十五年陸軍省令第三號ヲ以テ徵兵検査規則ヲ定ム

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス其事故ニ箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セズ

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故ニ箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス

第二十三條 第二十三條第一項ニ掲クル學校ニ在クル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歲迄止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限キ在ラス(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項改正シ二十六年法律第四號ヲ以テ滿二十六歲ヲ滿二十八歲ト改メ二十八號法律第十五號ヲ以テ第十一條トアル第十三條ニ改ム)

外國ニ在ル者ハ朝鮮國ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限キ在ラス(二十八號法律第十五號ヲ以テ本條中改正)

第二十四條 餘人ヲ以テ代テ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵後備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハズ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ(二十八號法律第十五號ヲ以テ條中改正)

法律ヲ以テ設立シタル議會ハ議員其開會中亦同シ

第十二類 徵兵令

第四章 (二十八法律第十五號ヲ以テ本)

第四章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄三滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又

第二十三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歳迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歳迄ニ

歸朝シタル者ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ^{戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ}本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニ

シテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス^(二十八法律第十五號ヲ以テ又第二十三條五々以下五十七條ヲ追加ス)

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス^(二十八法律第十五號ヲ以テ條中改正)

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ

潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一

日^{第十三條第三項ニ依リ服役スル者ニ現役年期ヨリ}陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算

ス但第七條ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ^(二十八法律第十五號ヲ以テ次項トモ改正)

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫

備役年期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年

目ノ十一月三十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ

於ケル豫備役年期ニ應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ理由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル

年ハ服役年期ニ算セス

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三十圓以上三

十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所

爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三

月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸ク以テ

施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム^(二十八法律第十五號ヲ以テ條中改正)

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ

通シテ十二箇年四箇月トス^(二十八法律第十五號ヲ以テ改正)

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過タルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第三項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過ケルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過ケルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲ケル者其事故各其本條ノ期限内ニ止マサルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十一條 舊令第十七條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止マサルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第二十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ在任セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二

豫備徵員トナリタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依リ

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲ケル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲ケル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項ヲ追加シ二十六年法律第四號ヲ以テ滿二十六歳ニ改メ二十八年法律第二十八號ヲ改メ二十八法律第十五號ヲ以テ第十一條トアルヲ第十三條ニ改ム)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サズシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(二十二年法律第二十九號ヲ以テ前項トアルヲ第一項及第二項ト改ム)

○北海道ニ徵兵令施行(明治二十八年九月勅令第百二十六號)

朕北海道ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治二十九年一月一日ヨリ北海道渡島、後志、膽振、石狩ノ四箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

明治三十一年一月一日ヨリ天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島、ノ七箇國ニ徵兵令ヲ施行ス(三十年勅令第百五十五號ヲ以テ本項追加)

第二條 前條ノ徵兵令施行地ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後前條ノ區域外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此限ニアラス

第三條 屯田兵現役豫備役下士兵卒ノ戶籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス(三十年勅令第百五十七號ヲ以テ改正)

第四條 從來徵兵令ヲ施行セル函館江差福山ニハ本令ヲ適用スルノ限ニアラス

○沖繩縣及小笠原島徵兵令施行明治三十年七月勅令第百五十八號

朕沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行ス

沖繩縣壯丁ニシテ徵集ニ應スルトキハ從來ノ産業ヲ維持スルコト能ハスト認ムル者ハ特ニ徵集ヲ免除ス

小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ従事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

○陸軍召集條例明治三十二年十月勅令第百九十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍召集條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍召集條例

第一章 總則

第一條 召集及簡閱點呼ハ在郷軍人及國民兵本籍地所管ノ師團長之ヲ掌ル

將官同相當官ノ召集ハ本條例ノ規定ニ依ラス師團長直ニ之ヲ行フ

第二條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官時機切迫シテ命ヲ請フ途無キトキハ獨斷シテ充員召集補充召集及國民兵召集ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ該司令官ハ召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第三條 召集事務ニ關シ師團長ノ定メタル規定ハ警視總監地方長官憲兵隊長及其ノ各所部ノ官吏公吏之ヲ遵行スヘシ

師團長ノ定メタル規定ニシテ公示ヲ要スルモノハ明治二十六年勅令第百九十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條 師團長ハ定期又ハ臨時ニ地方官廳及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下將校ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

警視總監地方長官憲兵司令官及憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢閲セシムヘシ

第五條 在郷軍人ノ召集ニハ召集令狀ヲ用非召集部隊到着地及到着日時ヲ指定シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ用非點呼場及到着日時ヲ指定ス

國民兵ノ召集ニハ召集令狀ヲ用非シテ召集令ヲ達ス

第六條 應召員ノ到着スル地ニハ召集事務所ヲ設ク

第七條 召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ其ノ出發前ニ於テ旅費ヲ給ス但シ一日行程以內ヲ旅行シタル後之ヲ給スルコトヲ得國民兵ニ在テハ到着地ニ到着シタル後之ヲ給スルコトヲ得
簡閱點呼ニ參會スル者ニハ旅費ヲ給セス

第八條 町村長ハ在郷軍人名簿及第一國民兵名簿ヲ調製シ常ニ其ノ異動ヲ訂正スヘシ

第九條 本條例中在郷軍人トアルハ豫備役後備役ノ將校同相當官准士官下士兵卒維卒職工ナセ及補充兵ヲ謂フ

第十條 本條例中到着地トアルハ召集部隊ノ所在地及應召員ハ召集部隊ニ到ル途中ニ於テ集合場ヲ設ケタル地ヲ謂フ

應召員トアルハ召集ニ應スヘキ者ヲ謂フ

第十一條 本條例中聯隊區司令部トアルハ警備隊司令部又ハ警備隊區司令部、聯隊區トアルハ警備隊區、郡トアルハ島司ヲ置キタル島嶼、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者島司又ハ郡長ニ準スヘキ者無キ島ノ管轄區、市、東京市京都市大阪市及北海道沖繩縣ノ區ニ在テハ區、北ニ該當スハキ者、島司ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者ノ管轄區、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支團長ノ管轄區

第十二條 本條例中聯隊區司令官ノ職務ハ警備隊區ニ在テハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、郡長ノ職務ハ島司ヲ置キタル島嶼ニ在テハ島司、島司又ハ郡長ヲ置カサル島嶼ニ在テハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、北海道ノ區制ヲ施行セサル地方ニ在テハ支團長、郡長及町村長ノ職務ハ市ニ在テハ市長東京市京都市大阪市、北海道及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長、島司郡長又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置カサル

島嶼ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者、町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條 島嶼ニ於テ本條例中ノ規定ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第十四條 動員ニ方リ休職停職ノ將校同相當官准士官ヲ就職セシメ及十二月一日以後ニ於テ未タ入營セサル現役兵ヲ徵集スルニハ充員召集ノ方法ニ依ル

第二章 充員召集

第一款 通則

第十五條 充員召集トハ動員ニ方リ諸部團隊ノ要員ヲ充足スル爲在郷軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第十六條 充員召集事務ニ關シ職責アル者ハ平時之ニ關スル諸件ヲ計畫準備シ召集實施ニ方リ其ノ事務ニ關シ訓示ヲ請フコトヲ許サス

第二款 充員召集準備

第十七條 師團長ハ召集要員ヲ定メテ各聯隊區ニ配當ス聯隊區司令官ハ之ニ基キ各郡ノ充員召集名簿待命員名簿及充員召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第十八條 地方長官東京府ニ在テハ警視總監ハ召集實施ニ方リ應召員ハ宿泊ニ供スル爲軍用旅舎ヲ定メ其ノ他召集ヲ容易ナラシムル措置ヲ爲スヘシ

第三款 充員召集實施

第十九條 充員召集ハ動員令ニ依リ之ヲ實施ス

第二十條 師團長ハ動員令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第二十一條 聯隊區司令官ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡長ニ達スヘシ

第二十二條 地方長官東京府ニ在テハ警視總監ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察署長警察分署長ヲ包テニ達シ

東京市京都市及大阪市ニ在テハ地方長官之ヲ市長ニ達スヘシ

憲兵隊長ハ動員令ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ達スヘシ

第二十三條 郡長ハ動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ町村長ニ送付スヘシ但シ演習召集

教育召集中ノ者ノ令狀ハ之ヲ送付セサルモノトス

第二十四條 町村長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召員又ハ召集通報人休職停職者ニ軍衙ノ命令ヲ通報スヘキ者ヲ包含ス、以下同シニ

交付シ召集通報人ヲ設ケサル不在者ニ在テハ其ノ戸主ニ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ戸主不在ナルトキハ其ノ家族中家事ヲ擔當スル者ニ令狀ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

召集通報人不在ナルトキハ前二項ニ依ル

第二十五條 應召員ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ハ直ニ確實迅速ナル方法ヲ以テ召集部隊到着地及到着

日時ヲ本人ニ通報本人ノ所在地ト到着地ト連絡スル爲メ到着地ニ至ル迄ノ間ハ電話ヲ以テシ其ノ令狀ヲ速ニ交付スルノ處置ヲ爲ス

ヘシ

第二十六條 應召員ハ令狀又ハ召集ノ通報ヲ受ケタルトキハ令狀ヲ携ヘ指定ノ日時ニ到着地ニ到着

シ召集事務所ニ届出ツヘシ但シ通報ヲ受ケタル者ニシテ令狀ノ交付ヲ受クル爲到着ヲ遅延スルノ虞アル場合ニ於テハ令狀ヲ携アルヲ要セス

召集ノ通報ヲ受ケタル應召員ニシテ指定ノ日時ニ到着スルコト能ハサル者ハ所在地ノ憲兵又ハ警

察官吏ニ就キ其ノ通報ヲ受ケタル日時及出發日時ノ證明書ヲ受ク到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘ

シ

前項ノ場合ニ於テ集會場ニ到着スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第二十七條 應召員ニシテ動員ニ方リ演習召集又ハ教育召集中ノ者アルトキハ部隊長其ノ召集ヲ解

除シ其ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘキ者ハ直ニ之ヲ當該部隊ニ編入シ他ノ部隊ノ充員召集ニ應スヘ

キ者ニハ聯隊區司令官ヨリ受ケタル令狀ヲ交付スヘシ

第二十八條 應召員中令狀又ハ通報受領ノ際傷病疾病ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ令狀又ハ通報

受領後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書ニ醫師ノ診斷證書及令狀ヲ添ヘ之ヲ本籍地町

村長ニ差出スヘシ但シ密留又ハ旅行先ヨリ届出ツル者ハ本籍地町村長ニ宛發送スヘシ

令狀又ハ通報受領後出發迄ノ間ニ於テ傷病疾病ノ爲應召スルコト能ハサルニ至リタル者ハ直ニ前

項ノ手續ヲ爲スヘシ

犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者アルトキ又ハ其ノ處アルトキハ令狀ヲ受領シタル者

ヨリ令狀受領後二十四時間以内ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書ニ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書及令狀

ヲ添ヘ之ヲ本籍地町村長ニ差出スヘシ

第一項第二項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第二十九條 前條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村長ニ届出テ指押ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發ヲ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

前項ニ依リ出發スル者集合場ニ到着スヘキ者ナルトキハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第三十條 應召員ハ途中ニ於テ傷病疾病ニ罹リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ直ニ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ召集部隊長ニ届出テ出發スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ速ニ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

傷病疾病ノ外止ムヲ得サル事故ニ因リ到着ヲ遅延スルノ虞アルトキハ其ノ地ノ郡長町村長憲兵警察官吏船長又ハ驛長ノ證明書ヲ受ケ到着ノ上召集事務所ニ届出ツヘシ

前二項ノ場合ニ於テ集合場ニ到着スヘキ者ハ直ニ召集部隊ニ到着スヘシ

第三十一條 應召員ハ非常事變ニ因リ交通斷絶シタル爲到着地ニ到着スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ最寄諸部團隊諸部團隊無キ地ニ在テハ郡長町村長憲兵又ハ警察官吏ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル者ハ適宜ノ處置ヲ爲シ本人ヲシテ到着地ニ到着セシム得ルニ至レハ證明書ヲ與ヘ出發セシムヘシ但シ集合場ニ到着スヘキ者ニ在テハ直ニ召集部隊ニ到着セシムヘシ

第三十二條 應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者ハ陸軍服役條例第八條第二十九條第八十條

第一百八條第三百七條ノ例ニ依リ届出ツヘシ補充兵ニ在テハ同條例第三百七條ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ召集ニ應スル以前ノ寄留地ニ歸ル者ノ本籍地聯隊區司令官ニ差出スヘキ届書ニハ寄留地町村長ノ證明ヲ受クヘシ

第四款 充員召集ノ解除

第三十三條 充員召集ノ解除ハ復員令ニ依リ之ヲ實施ス

第三十四條 復員令ノ達及通知ニハ第二十條乃至第二十二條ヲ準用ス

第三十五條 郡長ハ復員令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第三十六條 召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第三章 補充召集

第三十七條 補充召集トハ充員召集實施後缺員ヲ補充スル爲在郷軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第三十八條 師團長ハ補充召集令ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第三十九條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ補充召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第四十條 郡長ハ令狀ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ送付スヘシ

第四十一條 補充召集ニ關シテハ第十六條第二十四條乃至第三十一條及第三十三條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第四章 國民兵召集

第四十二條 國民兵召集トハ國民軍ヲ動員スル爲國民兵ヲ召集スルヲ謂フ

國民兵召集ヲ分テ第一國民兵召集第二國民兵召集ノ二種トス

第四十三條 町村長ハ其ノ管内ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作リ之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第四十四條 郡長ハ前條ノ人員表及名簿ヲ受ケタルトキハ其ノ管内ニ在籍スル國民兵ノ人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ作リ之ヲ警視總監地方長官及聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四十五條 師團長ハ國民兵ヲ召集スルニハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齡集會場其ノ他必要ノ事項ヲ聯隊區司令官ニ達シ其ノ種類年齡及集會場ヲ警視總監地方長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十六條 聯隊區司令官ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ召集スヘキ國民兵ノ種類年齡集會場及集會場到着日時ヲ郡長ニ達スヘシ

第四十七條 國民兵召集ニ關シテハ第二十二條ヲ準用ス

第四十八條 郡長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達シ應召員到着日時前ニ吏員ヲ集會場ニ派遣スヘシ

第四十九條 町村長ハ國民兵召集令ノ達ヲ受ケタルトキハ直ニ應召員ニ其ノ旨ヲ達シ指定ノ日時迄ニ之ヲ集會場ニ引率シ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ニ交付スヘシ但シ將校同相當官准士官ハ直ニ集會場ニ到着スヘシ

第五十條 聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ハ集會場ニ於テ應召員ノ身體検査ヲ行ヒ召集ニ適

セサル者ハ歸郷セシムヘシ

集會場ニ在ル郡ノ吏員ハ聯隊區司令官又ハ聯隊區司令部ノ職員ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第五章 演習召集

第五十一條 演習召集トハ演習ノ爲在郷軍人第二節五ヲ召集スルヲ謂フ

演習召集ヲ分テ定期演習召集臨時演習召集ノ二種トス

第五十二條 臨時演習召集ハ本章ノ規定ニ依ラス臨時規定スルモノヲ除外第二章第三款及第四款ヲ準用ス

第五十三條 演習召集ハ本籍所在ノ師管ニ於テス但シ其ノ師管ニ於テ演習ヲ爲スヘキ部隊無キ者ハ他ノ師管ニ於テス

近衛師團ニハ第一師管外ニ在籍スル者ヲ召集スルコトアルヘシ

第五十四條 寄留地ニ於テ演習召集ニ應スヘキ許可ヲ受ケタル者ハ寄留地所管ノ師團長之ヲ召集ス

第五十五條 一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ

陸軍補充條例ニ依ルノ外仍本章ノ規定ニ依ル

第五十六條 師團長ハ演習召集ノ日時人員日數及部隊ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達シ警視總監地方

長官及憲兵隊長ニ通知スヘシ

前項ノ召集日數ハ演習ノ成績ニ依リ之ヲ增加スルコトアルヘシ

第五十七條 聯隊區司令官ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第五十八條 應召員ハ傷病疾病犯罪所在不明等ノ爲應召スルコト能ハサル者ハ應召員預備令ニ依リ

令狀ヲ受ケタル者ヨリ到着日時迄ニ聯隊區司令官ニ宛タル届書及其ノ令狀ヲ本籍地町村長寄留地ニ在リテハ寄留地町村長ニ差出スヘシ但シ傷病疾病ニ係ルキハ醫師ノ診斷證書犯罪所在不明等ニ係ルキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ

前項ノ手續ヲ爲スニ方リ未タ令狀ヲ受領セサル者ハ受領後別ニ之ヲ差出スヘシ

第五十九條 應召員中父母ノ疾病危篤又ハ死亡ノ爲召集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ將校同相當官准士官ニ在テハ師團長、下士兵卒及補充兵ニ在テハ聯隊區司令官ニ宛タル願書ヲ本籍地町村長寄留地ニ在テハ寄留地町村長ニ差出スヘシ但シ父母ノ疾病危篤ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

第六十條 第五十八條ノ場合ニ於テ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミタルトキハ直ニ本籍地町村長寄留地ニ在テハ寄留地町村長ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

町村長ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ聯隊區司令官ノ指定ニ基キ本人ニ出發シ命シ又ハ出發ヲ差止ムヘシ

第六十一條 演習召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者及召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第六章 教育召集

第六十二條 教育召集トハ教育ノ爲第一補充兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十三條 聯隊區司令官ハ教育召集ノ達ヲ受ケタルトキハ教育召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十四條 教育召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

二項第四十條第五十三條第五十四條第五十六條及第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

應召員中事故ニ因リ歸郷ヲ命セラレタル者又ハ召集解除ヲ命セラレタル者ニハ第三十二條ヲ準用ス

第七章 補缺召集

第六十五條 補缺召集トハ平時ニ於テ臨時ニ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ歸休兵ヲ召集スルヲ謂フ

第六十六條 補缺召集ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ師團長之ヲ行フ

第六十七條 聯隊區司令官ハ補缺召集ノ達ヲ受ケタルトキハ補缺召集令狀ヲ作り之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第六十八條 補缺召集ニ關シテハ第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

二項第四十條第五十六條第一項第五十八條乃至第六十條ヲ準用ス

第八章 簡閱點呼

第六十九條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵ヲ集合シテ之ヲ點檢査閱スルヲ謂フ

第七十條 師團長ハ簡閱點呼ノ時期ヲ定メ之ヲ聯隊區司令官ニ達スヘシ

第七十一條 師團長ハ部下ノ佐官又ハ尉官ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ナル訓示ヲ授クヘシ

簡閱點呼ハ參會スヘキ者僅少ナル僻陬ノ地ニ在テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十二條 聯隊區司令官ハ第七十條ノ達ヲ受ケタルトキハ點呼場點呼區域及點呼日割ヲ定メ之ヲ師團長ニ差出シ警視總監地方長官憲兵隊長簡閱點呼執行官及郡長ニ通知スヘシ

第七十三條 地方長官東京府ニ在テハ警視總監及郡長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ地方長官東京府ニ在テハ警視總監ハ之ヲ

警察署長、郡長ハ之ヲ町村長ニ送スヘシ

憲兵隊長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵分隊長ニ送スヘシ

第七十四條 聯隊區司令官ハ照會令狀ヲ作リ之ヲ郡長ニ送付スヘシ

第七十五條 簡閱點呼ニ關シテハ第二十四條第二十五條及第四十條ヲ準用ス

第七十六條 令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ハ指定ノ日時ニ點呼場ニ到著シ簡閱點呼執行官ニ届出ツヘシ

第七十七條 町村長ハ簡閱點呼ニ參列シ簡閱點呼執行官ノ要求ニ應シ其ノ事務ヲ補助スヘシ又必要アルトキハ照會令狀ヲ與フルコトヲ得

第七十八條 令狀又ハ參會ノ通報ヲ受ケタル者ニシテ傷痍疾病犯罪所在不明等ノ爲參會スルコト能ハサル者ハ本人又ハ本人ニ代リ令狀ヲ受ケタル者ヨリ參會日時迄ニ簡閱點呼執行官ニ宛タル届書

及其ノ令狀ヲ本籍地町村長寄留地ニ在テ簡閱點呼ニ參會スヘキ者ニ在テハ簡閱點呼執行官ニ送付スヘシニ差出スヘシ但シ傷痍疾病ニ係ルトキハ

醫師ノ診斷證書犯罪所在不明等ニ係ルトキハ憲兵又ハ警察官吏ノ證明書ヲ添フヘシ

第七十九條 簡閱點呼執行官ハ遲參ノ爲簡閱點呼ヲ終ラサル者ニハ他ノ點呼場ヲ指定シテ參會ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ令狀ヲ作リ之ヲ交付シ受領證ヲ受取ルヘシ

第九章 罰則

第八十條 正當ノ事由無クシテ第二十五條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者並簡閱點呼參會者ニシテ點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命ニ服セズ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十一條 正當ノ事由無クシテ第二十六條第二項第二十八條第一項乃至第三十條第一項

第三十條第一項第二項第三十一條第一項第五十八條第一項第六十條第一項第七十八條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者並正當ノ事由無クシテ簡閱點呼ニ參會セサル者ハ五十錢以上一

圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第八十二條 正當ノ事由無クシテ第三十二條ノ規定及之ヲ準用シタル規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第八十三條 臺灣ニ於テ演習召集教育召集及簡閱點呼ヲ行フニ際シテハ陸軍大臣適宜其ノ方法ヲ規定スルコトヲ得

第八十四條 豫備役後備役屯田兵下士卒ノ召集事務ニ關シ郡長及町村長ノ職務ハ屯田兵村監視之ヲ行フ

第八十五條 士官適任證書所持者ヲ士官ニ任スル爲行フ演習召集ニ關シテハ第五十五條ヲ準用ス

第八十六條 當分ノ内第七師團ニ於テハ演習ノ爲他ノ師團在籍ノ者ヲ召集スルコトヲ得

第八十七條 本條例ハ明治三十二年十月二十日ヨリ施行ス但シ師團長ハ七箇月以内一部ノ施行ヲ延期シ舊令ニ依ルコトヲ得

○ 國民軍條例明治二十八年一月勅令第十三號

朕國民軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

二十八號陸軍
省令第二號
以國民軍召集
集規則ヲ定ム

國民軍條例

第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民兵ノ召集及解散ハ勅命ニ依リ師團長之ヲ行フ
戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行
フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官、下士ヲ以テ充ツルノ
外左ニ掲クル者ヨリ選拔シテ之ニ充ツ

一 退役ノ陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

三 國民兵中材幹技能アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備兵召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條 第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸
軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ師團長、同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第七條 第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得其ノ勤務
ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス

前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ準士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

二十九號陸軍
省令第十號
以テ施行細則ヲ
定ム

第一章 徵兵區

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ拔擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役
ニ準ス

第九條 第四條第二第三ニ該ル任官シタル者解散ノ時キハ准士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官
ヲ免ス

○徵兵事務條例 明治二十九年三月
朕樞密顧問ヲ諮詢ヲ經テ徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管及聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從テ

第二條 聯隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市北海道ニテハ一區ト爲ス以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二聯隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

數郡ニテ郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其ノ島嶼ヲ置クモノ亦同シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ更ニ徵募區ヲ檢查區ニ分テ區ヲ以テ檢查區ト爲ス

第四條 步兵隊ノ兵員ハ聯隊ハ其ノ師管一聯隊區第一師管ニ在リ其ノ他ノ兵員ハ其ノ師管

三十二年勅令第百一十三號

各聯隊區ヨリ徵集シ但要員ヲ充シ能ハサル時ハ他ノ聯隊區若クハ他ノ師管ヨリ其ノ不足ヲ補充スルコトヲ得ル(三十二年勅令第百一十三號) 近衛ノ步兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其ノ他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス(三十二年勅令第百一十三號) 次項下) 二師管ヨリ各區ハ八ノ一ノ限ニシテ徵集ス

鐵道隊ノ兵員ハ第一第二第三第四第八及第九師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其ノ警備隊區ヨリ徵集ス

海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括シテ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官、師管徵兵官、聯隊區徵兵官、警備隊區徵兵官及聯隊區聯合徵兵官

第六條 總理徵兵官ハ内務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ

師管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 北海道ヲ以テ師團長及北海道廳長官ヲ以テ師管徵兵官ニ充テ師團長ヲ首坐トシ其ノ管内徵

兵ノ事ヲ統轄ス

第九條 聯隊區徵兵官ハ聯隊區内徵募區毎ニ聯隊區司令官及島岡郡市長(北海道ノ區ニ在リ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島岡郡長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令

官ヲ首坐トシ其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第十條 京都市、大阪市ニ於テハ檢査區毎ニ聯隊區司令官及區長ヲ以テ聯隊區徵兵官ニ充テ

聯隊區司令官ヲ首坐トシ抽籤事務ヲ除ク外其ノ區内徵募事務ヲ執行ス

第十一條 聯隊區聯合徵兵署徵兵官ハ京都市、京都市、大阪市ニ於テ徵募區毎ニ聯隊區司令官、市

長及各區長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ首坐トシ其ノ區内抽籤事務ヲ執行ス(三十二年勅令第百一十三號) 警備隊區司令官ハ警備隊區司令官ニ充テ之ニ充テ聯隊區司令官ヲ執行ス

第十二條 第八條第九條ニ掲クル徵兵官ノ外聯隊區内徵募區(京都市、京都市、大阪市、大阪府)毎ニ聯隊區徵兵參事

員警備隊區内徵募區毎ニ警備隊區徵兵參事員ヲ置ク(警備隊區司令官ハ第一師管ヨリ一ノ一ノ限ニシテ

第十三條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ徵兵令第三十二條ニ當リ徵集延期及徵

集免除並ニ明治二十八年勅令第百二十六號第三條ニ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵

兵官ニ具申スルヲ任スト但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ハ其ノ任ノ範圍ニ依リテ之ニ充テ但

第十四條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ郡市名譽職參事員ヲ以テ之ニ充テ但

市ニ於テハ其ノ市名譽職參事員ニ於テ四名ヲ互選シ之ヲ定ム

第十五條 京都市、京都市、大阪市ノ區内聯隊區徵兵參事員ハ市會ニ於テ其ノ區内ニ住ル本市公民中選舉

權ヲ有スル者ヨリ四名ヲ選舉シ之ヲ定ム其ノ任期ハ市會議員ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第十六條 島岡郡長及島岡郡聯合徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ島岡郡長ニ於テ各町村會議員中ヨ

リ四名ヲ選ヒ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス其ノ任期ハ町村會議員ノ任期ニ依リテ之ヲ定ム

北海道ノ郡又ハ區ハ聯隊區徵兵參事員ハ徵募區毎々四名以下ノ北海道廳長官之ヲ命ス其ノ任期等ハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 毎年徵募事務執行中ハ師管徵兵醫官及聯隊區徵兵醫官聯隊區徵兵副醫官又ハ警備隊區徵兵醫官警備隊區徵兵副醫官ヲ置ク但シ警備隊區徵兵副醫官ハ時宜ニ依リ之ヲ置ガサルコトヲ得(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

師管徵兵醫官ハ師團長ニ屬シ師管内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵醫官ハ聯隊區司令官ニ警備隊區徵兵醫官ハ警備隊司令官ニ屬シ其ノ區内徵兵身體検査ニ係ル事ヲ管掌シ聯隊區徵兵副醫官ハ聯隊區徵兵醫官ヲ警備隊區徵兵副醫官ハ警備隊區徵兵醫官ヲ補佐ス(上)

第十四條 師管徵兵醫官ハ師團軍醫部長ヲ以テ之ニ充テ聯隊區徵兵醫官及警備隊區徵兵醫官ハ陸軍一等軍醫一名聯隊區徵兵副醫官及警備隊區徵兵副醫官ハ陸軍二三等軍醫ノ内一名ヲ以テ之ニ充(上)

第十五條 毎年徵募事務執行中ハ聯隊區徵兵署、警備隊區徵兵署及聯隊區聯合徵兵署ニ事務員ヲ置キ該徵兵署ノ庶務ニ從事ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

第十六條 聯隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員ハ聯隊區書記又ハ警備隊書記二名及島嶼郡市書記(東京市、京都市、大阪市及北海道ノ區ニ在テハ區書記)二名若クハ三名ヲ以テ之ニ充(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

第十七條 徵募事務執行ニ際シ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ノ全部ヲ缺クトキハ

府縣知事ハ徵募區内シテ公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ就キ臨時聯隊區徵兵參事員又ハ臨時警備隊區徵兵參事員ヲ命ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

第三章 配賦

第十八條 毎年徵募シキ現役兵及補充兵ノ員數ハ上載ヲ經テ陸軍大臣之ヲ各師管配賦シ第十九條 師團長ハ第十九條ニ依リ現役兵及補充兵ノ要員ヲ各聯隊區又ハ警備隊區ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

第四章 徵募

第二十條 現役兵及補充兵ハ配賦シ且シ總數ヲ基準トシテ之ヲ定ム(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

第二十一條 町村長(町村制ヲ施行セザル地方ニ在テハ區長)ハ毎年戶籍簿ニ據リ徵兵適齡者ヲ取調ヘ徵兵令第二十五條ノ屆書ニ照較シ壯丁名簿ヲ作リ二月十五日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取調テ前年假決ノ諸名簿ト共ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ改正)

第二十二條 毎年徵募事務執行シテ各徵募區及検査區ニ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署

ヲ設ク但土地廣潤若ハ交通不便若ハ壯丁多數ノ徵募區ニ於テハ二箇所以上ノ地ニ逐次開設ス
ルコトヲ得(三十二年勅令第百十)

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤進行ノ爲メ別ニ徵募區ニ聯隊區聯合徵兵署ヲ設ク

第二十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署開設ノ日割ヲ定メ聯
隊區司令官警備隊司令官ハ師團長ニ島司郡市長ハ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ(三十二年勅令第百十三號)

島司郡市長ハ検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ豫メ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵
參事員ニ通知ス且其ノ管内ニ告示スヘシ

第二十三條 徵兵署設立ノ適否ヲ決定スル爲メ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ壯丁ノ身體検査
ヲ行フ其ノ検査ハ徵兵署及徵兵參事員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十四條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ヲ專ラ監督シ兵種別選定任
第二十五條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關シ及書類ヲ調査及事實ノ
審察ニ任ズ(三十二年勅令第百十三號)

第二十六條 壯丁ノ身體検査終ルル時聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ハ徵集延期、徵集猶
豫、徵集免除及兵役免除ノ處分ヲ爲シ又壯丁名簿ヲ以テ徵集名簿、徵集延期名簿、徵集猶豫名
簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作シ之ヲ提出ス

第二十七條 壯丁ノ身體検査終ルル時聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ハ徵集延期、徵集猶
豫、徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ作シ之ヲ提出ス

第二十八條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種

ヲ分テ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ且東京市、京都市、大阪市ニ於テハ
聯隊區聯合徵兵署ニ於テ之ヲ行フ

抽籤ハ徵兵署及徵兵參事員列席ニシテ抽籤總代人之ヲ爲シ之ヲ行フ又東京市、京都市、大阪市
ハ徵兵參事員ハ各検査區ニテ一名宛出席スヘシ(三十二年勅令第百十三號)

抽籤總代人ハ其ノ年ノ壯丁ニ對シテ聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員之ヲ選定ス其
人員ハ適宜トス(三十二年勅令第百十三號)

第二十九條 前條ノ徵兵署總代人ハ抽籤號碼ノ順序ニ依テ抽籤名簿ニ通テ作ル

第三十條 抽籤終ルル時抽籤名簿及徵集名簿ハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官之ヲ領シ抽籤
名簿ハ徵集延期名簿、徵集猶豫名簿、徵集免除名簿及兵役免除名簿ハ島司郡市長之ヲ領シ島

司郡市長ハ備置ス但東京市、京都市、大阪市ニ於テハ抽籤名簿ヲ除ク外ハ區長之ヲ
領シ區長ハ備置ス(三十二年勅令第百十三號)

第三十一條 各徵募區ハ抽籤終ルル時聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第三十條ノ配賦ニ基
キ現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又徵集名簿ヲ以テ現役兵名簿、補充兵名簿及要員超
過名簿ヲ作ル

第三十二條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿、各聯隊長ハ現役兵名簿及海兵團長
ハ交付ス且現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

第三十三條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿、各聯隊長ハ現役兵名簿及海兵團長
ハ交付ス且現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

第三十四條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿、各聯隊長ハ現役兵名簿及海兵團長
ハ交付ス且現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

第三十五條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿、各聯隊長ハ現役兵名簿及海兵團長
ハ交付ス且現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

第三十六條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ現役兵名簿、各聯隊長ハ現役兵名簿及海兵團長
ハ交付ス且現役兵徵募及補充兵編入ノ處分ヲ爲シ又補充兵ニ編入スヘキ者ノ順序ヲ島司郡市長ニ通知スヘシ

抽籤名簿及補充兵名簿ハ之ヲ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置キ要員超過名簿ハ島司郡市長ニ交付シ島國郡市役所ニ備置クヘシ

第三十三條 第二十七條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官第三十一條ノ處分ヲ爲シタル者ニハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部各其ノ證書ヲ附與ス但徵集免除ノ者並ニ要員ニ超過シタル者ニハ證書ヲ附與セズ

第三十四條 徵集事務終ルトキハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ハ徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作リ師團長ニ差出シ師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作リ陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作リ奏上スヘシ

第五章 裁決

第三十五條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第三十六條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ現役兵徵集、補充兵編入、要員超過、徵集免除及兵役免除ノ事ヲ裁決ス

第三十七條 徵集延期、徵集猶豫、徵集免除及兵役免除ノ裁決ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ其ノ他ノ裁決ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部之ヲ爲ス

第三十八條 聯隊若クハ其ノ家族ニ於テ徵兵令第二十二條及明治二十八年勅令第二百十六號第二條ニ關スル聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲ニ裁決ヲ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期日ヲ過クルモノハ受理セス

第三十九條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サントスル者ハ其ノ訴願書ニ同徵集區内其ノ年徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戶主三名ノ保證書ヲ添ヘ其ノ裁決ヲ爲シタル徵兵官ヲ經由シテ差出スヘシ

徵兵官前項ノ訴願書ヲ受領シタルトキハ之ニ前裁決ニ關スル書類ヲ添ヘ上級ノ徵兵官ニ差出スヘシ

第四十條 總理徵兵官又ハ師管徵兵官ニ於テ下級徵兵官ノ裁決不當ナリト認ムルトキ又其ノ裁決詐偽若ハ錯誤ニ起因シタルモノナリト認ムルトキハ之ヲ取消シ更ニ處分ヲ命スヘシ但シ師管徵兵官ハ總理徵兵官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第六章 現役兵及補充兵

第四十二條 現役兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵ノ入營ハ二期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年六月一日トシ砲兵輸卒ノ入營ハ三期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年四月一日第三期ハ同年八月一日トシ輜重輸卒ノ入營ハ四期ニ分チ其ノ第一期ハ徵募年ノ十二月一日第二期ハ翌年三月一日第三期ハ同年六月一日第四期ハ同年九月一日トス

第二師管第七師管第八師管及第九師管に於テハ砲兵輸卒ノ入營ハ二期ニ分テ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年四月一日第二期ハ同年八月一日トシ輸重輸卒ノ入營ハ三期ニ分テ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年三月一日第二期ハ同年六月一日第三期ハ同年九月一日トス但シ第七師管及第八師管ニ於テ輸重輸卒ノ入營ハ二期ニ分テ其ノ第一期ハ徵募年ノ翌年五月一日第二期ハ同年八月一日トス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中改正)

第四十三條 現役兵ヲ入營セシムルトキハ聯隊區司令官部員ヲ入營地若ハ近衛、海軍入營地ニ合地ニ派遣シ之ヲ當該隊長又ハ近衛、海軍入營地受領員ニ交付セシム但シ土地ノ狀況ニ由リ入營兵引率員ヲシテ入營地若ハ近衛、海軍入營地集合地ニ引導セシムルハ必要ナルハシ(陸海軍入營兵ノ人員寡少ナルト及入營兵受領員出費後遺著シタル者ハ直ニ入營セシム)

第四十四條 現役兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中改正)其ノ延期ヲ願フ者ハ願書ヲ市町村長ニ提出ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中改正)其ノ醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ差出ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中改正)第四十五條 現役兵入營前ハ第四條ノ區域外ニ轉籍モ有ラズモ所屬ノ隊籍ヲ變更セス(徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者ハ身體検査ヲ行ヒ更ニ隊籍ヲ定ムルモノトス但

第四條ノ區域外ニ轉籍シタル者ハ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ行ヒ隊籍ヲ定ム

第四十六條 現役兵入營前死亡若クハ疾病犯罪其ノ他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ缺員ヲ生シ若ハ入營シ難シト認メタル者又ハ入營ノ後翌年一月三十一日前ニ死亡シタル者若クハ一時服役ニ堪ヘサル者又ハ常備後備ノ服役及永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其ノ徵募區同兵種ノ第一補充兵若クハ海軍補充兵ヲ以テ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ補充シ若シ其ノ徵募區ヨリ補充スルコト能ハサルトキハ聯隊區内他ノ徵募區ヨリ補充ス其ノ配賦ハ各徵募區補充兵ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム但シ警備隊諸兵及砲兵輸卒、輸重輸卒ニシテ入營スヘキ月ノ十日迄ニ本文ノ事故ヲ生シタル者アルトキハ次期入營スヘキ者ヲ繰上ケ入營セシム其ノ最終期ニ在テハ前期ニ繰上ケタル缺員ト其ノ期ノ缺員ハ第一補充兵ヲ以テ補充ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中改正)第四十七條 現役兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ兵役ヲ免ス但シ徵兵令第二十七條ニ當リ翌年回ト爲リタル者其ノ年徵募事務終結前ハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 現役兵入營前徵兵令第二十二條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ徵集ヲ延期ス其ノ願書ニハ同徵募區内其ノ年徵集ニ應スヘキ現役兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ尙司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ノ與書證明ヲ受クヘキモノトス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中改正)

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審取シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付スヘシ

第四十九條 現役兵入營前及補充兵補充兵證書附與後其ノ年十一月三十日以前ノ者以下同シ轉籍シタルトキハ十四日以内ニ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ(三十二年勅令第百十號ヲ以テ條中追加)

其ノ轉籍聯隊區外又ハ警備隊區外ニ係ルトキハ舊住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ新住地聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十條 現役兵入營前及補充兵寄留若クハ十四日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ復歸シタルトキ亦届出ヘシ但東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長町村ニ在テハ町村長ヲ經由スヘシ(三十二年勅令第百十號ヲ以テ條中追加)

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遅緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第七章 雜則

第五十一條 徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ願書ニ戸主或ハ後見人連署シ身元證書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ九月一日以前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ海兵團ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但軍隊又ハ海兵團遠隔ノ地ニ居住ノ者ハ徵兵検査ノ際聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ申立テ身體検査ヲ受ケ合格ノ者ハ合格證書ヲ添ヘ願出ルコトヲ得

検査ノ爲メ往復ノ旅費及入營旅費ハ自辨トス

第五十二條 第五十一條ニ依リ服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出ヘシ

第五十三條 他ノ徵募區ニ寄留シ其ノ地ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ冀望スル者ハ本籍及寄留地徵募區ノ検査開始前寄留地ノ島司郡市長東京市、京都市、大阪市ニ在テハ區長以下同シニ願出テ且其ノ由ヲ本籍ノ市町村長ニ届出ヘシ(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ各項トモ改正)

島司郡市長其ノ願ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十四條 徵兵令第二十二條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應スヘキ壯丁ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ三月一日迄ニ三月一日後抽籤迄ニ申放ノ生シタル者ハ其程度以下同シ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ但其ノ事故二年以上繼續スル者ハ毎年願出テ其ノ三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ本文ノ保證書ヲ添ヘ届出ヘシ

前項ノ願書及届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十五條 徵兵令第二十三條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ添ヘ三月一日迄ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ
公使領事及貿易事務官ヲ置カサル國ニ在ル者及一定ノ地ニ在留セサル旅行ノ者ハ其ノ徵集猶豫願書ニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ證明書ヲ添ヘ差出スヘシ(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ本項中追加)
公使領事及貿易事務官ヲ置キタル國ニ在ル者ト雖徵集猶豫願書ヲ差出ストキ未タ公使領事又ハ貿易事務官ノ證明書ヲ得サルトキハ之ニ換フルニ海外旅券ヲ受取リタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ差出シ置キ追テ證明書ヲ差出スコトヲ得
本條ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十六條 明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ毎年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

前項ノ願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第五十七條 徵兵令第二十三條第一項ノ事故止ミタル者ノ屆書及同條第二項ノ歸朝シタル者ノ屆書ハ町村長ヨリ其ノ年ノ壯丁名簿進達前ニ在テハ其ノ名簿ト共ニ進達後ニ在テハ受領ノ日ヨリ三日以内ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ差出スヘシ

市長ハ前項ノ屆書ヲ聯隊區徵兵署若クハ聯隊區聯合徵兵署開設ノトキ同署ニ提出スヘシ
第五十八條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體検査ヲ受ケ難キ者及志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司郡市長ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ(三十二年勅令第百十三號)

十三號ヲ以テ條中改正)

島司郡長ニ差出ス屆書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出ヘシ其ノ疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ其ノ屆書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

本條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十條 徵兵署ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、現役兵入營ノ旅費、徵兵參事員ノ手當金、旅費ハ官給ス(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ條中削除)

第六十一條 第四十條ニ依リ更ニ處分ヲ爲ストキハ臨時徵兵署ヲ開設スルコトヲ得(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ條中改正)

第六十二條 島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長、地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得其ノ願出手續及取扱ハ第五十三條ノ例ニ準ス

韓國在留ノ者ニ在テモ前項ノ例ニ依リ便宜ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得(三十二年勅令第百十三號ヲ以テ追加)

第六十四條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其ノ年又ハ翌年ノ徵集ニ應
ジシム但年齡二十六歳ヲ過キ轉籍シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第六十五條 第七師團ノ兵員ハ當分第一第二第七及第八師管ヨリ徵集ス但シ第七師管外ヨリ徵
集スル者ノ入營ニ係ル取扱ハ第四十三條近衛、海軍入營兵ノ例ニ依ル(三十二年勅令第五
十三號ヲ以テ改正)

第六十六條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ未タ郡制ヲ施行セサル郡ニ在テハ其
ノ郡内ニ於テ四名ヲ選舉シ當選ノ者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ選舉人被選舉人資格、選舉ノ方法及
任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル

第六十七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○徵兵事務條例補則明治三十一年三月
勅令第四十一號

朕徵兵事務條例補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例補則

第一條 徵兵事務條例中北海道及沖繩縣並小笠原島ニ實施シ難キ諸件ハ當分本則ニ依ル

第二條 北海道廳支廳ノ管轄區域及沖繩縣ノ區並小笠原島ハ各之ヲ徵募區ト爲ス

第三條 聯隊區徵兵參事員又ハ警備隊區徵兵參事員ハ一徵募區ニ四名トシ地方長官之ヲ命ス其
ノ任期等ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條 沖繩縣及小笠原島ニ在テ徵兵參事員ハ徵兵事務條例第十一條ニ掲クル外明治三十年勅
令第二百五十八號第二項若ハ第三項ノ徵集免除又ハ徵集猶豫ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵
兵官ニ具申スルヲ任トス

第五條 明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ル者ハ從來ノ經歷及產業ノ現況ヲ詳記シ三
月一日迄三月一日以後事故ノ生シタ
ル者ハ其ノ都度以下同シニ警備隊區徵兵官ニ願出ヘシ

明治三十年勅令第二百五十八號第三項ニ當ル者ハ其ノ移住ノ年月日及生業ノ狀況ヲ詳記シ每
年三月一日迄ニ聯隊區徵兵官ニ願出ヘシ

本條ノ願書ニハ町村長ニ準スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

第六條 壯丁若ハ其ノ家族ニ於テ明治三十年勅令第二百五十八號第二項及第三項ニ依ル警備隊
區徵兵官又ハ聯隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ徵兵事務條例第五章ノ規程ニ依リ訴願ス
ルコトヲ得

第七條 沖繩縣ニ在テ島司郡區長ハ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ依ル徵集免除ニ關
スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第八條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師管徵兵官ノ認可ヲ得某徵募區ノ徵兵署ヲ他ノ徵募區内ニ設
クルコトヲ得

第九條 沖繩警備隊區ノ壯丁ハ之ヲ第六師團第十二師團及海軍諸兵ニ徵集ス
沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ要員ヲ其ノ區ノ壯丁ヲ以テ充スコト能ハサルトキハ

其ノ不足員ハ第六師管及第十二師管若ハ其ノ一ヨリ補充ス

第十條 沖繩警備隊區ニ於ケル現役兵及補充兵ノ配賦ハ壯丁ノ總員ヨリ明治三十年勅令第二百五十八號第二項ニ當ルヘキ豫定ノ人員ヲ除算シタルモノヲ以テ率トス

第十一條 沖繩警備隊區ヨリ徵集ノ現役兵入營ノトキハ地方吏員之ヲ引率シ當該隊長又ハ海兵團長ニ交付セシム

第十二條 徵兵事務條例中警備隊司令官警備隊司令部附軍醫ノ職務ハ沖繩警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官警備隊區司令部附軍醫、市長市書記ノ職務ハ沖繩縣ニ在テハ區長區書記、郡市長、郡市書記ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長同支廳ノ屬、町村長ノ職務ハ沖繩縣及小笠原島ニ在テハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第十三條 北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル聯隊區徵兵官タル聯隊區司令官ノ職務ハ聯隊區副官若ハ他ノ將校ヲシテ臨時之ヲ行ハシムルコトヲ得

北海道廳紗那支廳管下及小笠原島ニ於ケル徵兵事務執行ノ際ハ徵兵事務條例第十四條ノ軍醫ノ外仍軍醫一名ヲ以テ聯隊區徵兵官ト爲スコトヲ得

附則

第十四條 本則中警備隊區ニ係ル事項ハ明治三十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 第五條第一項及第三項ノ願出期日ハ明治三十一年ニ限り四月二十日迄トス

二十六年陸軍
勅令第七十三號
以テ施行細則
ヲ定ム

○陸軍一年志願兵條例明治二十六年七月勅令第七十三號

沿革略記明治二十二年勅令第十四號ヲ以テ陸軍一年志願兵條例ヲ制定ス●二十六年七月勅令第七十三號ヲ以テ前條例ヲ改正ス

朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及術成地ヲ選ブコトヲ得

但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス(二十八勅令第三十四號三十二年勅令第四百十四號ヲ以テ修正)

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金二十八圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、刷毛費及馬藥費トシテ更ニ金七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人満期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長聯隊長成ササル隊ニ在テハ該隊長以下同シ外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セシム(二十八勅令)

第三十四號ヲ以テ本項追加

第七條 一年志願兵ハ現役満期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス(二十八年勅令第三十四號ヲ以テ改正)

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長東京都大坂ノ三市及中樞ニ在テハ北海道支廳ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ長又ハ區長以下同シニ在テハ北海道支廳ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戸主ニアラサルモノハ戸主二十歳未滿者ハ戸主若クハ後見人及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス(二十八年勅令第三十四號三十九年勅令第九十一號三十二年勅令第九十四號三十二年勅令第九十四號三十二年勅令第九十四號ヲ以テ條中改正)

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ(二十八年勅令第三十四號及二十九年勅令第九十一號ヲ以テ條中改正)

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試験ヲ受クヘキ者ノ人員ヲ各検査場ニ區分シ二月二十日迄ニ教育總監ニ通報シ又人名書ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス(二十九百九十一號及三十二年勅令第九十四號ヲ以テ條中改正)

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス(三十二年勅令第九十四號ヲ以テ條中改正)

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ北海道廳長官府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス(三十二年勅令第九十四號ヲ以テ條中追加)

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシム其合格者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム(二十七年勅令第八號及二十九年勅令第九十一號ヲ以テ條中改正)

第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ(二十七年勅令第八號及二十九年勂令第九十一號ヲ以テ條中改正)

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵トシテ下士ノ勤務ヲ爲サシム更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム其ノ一等卒上等兵ヲ命シ及伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テスルモノトス(三十二年勅令第九十四號三十二年勅令第九十四號三十二年勅令第九十四號ヲ以テ條中改正)

將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス(三十二年勅令第二百一十四號ヲ以テ條中削除)

軍醫生藥劑生獸醫生軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス(二十七年勅令第八號ヲ以テ條中ヲ改正追加)

第三十條 戰爭若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ(二十八年勅令第三十四號ヲ以テ條中追加)

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ該隊所管ノ師團長ニ届出ヘシ(二十九年勅令第九十一號及三十二年勅令第十四號ヲ以テ條中ヲ改正)

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊延期ヲ該隊所管ノ師團長ニ出願スヘシ(上全)

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ條中ヲ改正)

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セザルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痕若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス(二十八年勅令第三十四號ヲ以テ條中ヲ改正) (二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本條改正)

一 傷痕若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官(沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長ヲハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス)

(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本條追加) (三十二年勅令第十四號ヲ以テ條中追加)
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊區司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス但シ一年志願兵認定證書付與後入隊前ノ者ニ在テハ師團長自ラ第二國民兵役ニ服セシメ若ハ兵役ヲ免スルノ處分ヲ爲ス(二十九年勅令第九十一號ヲ以テ本條追加) (三十二年勅令第十四號ヲ以テ但書追加)

附則

第三十八條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇月トス(二十八勅令第三十四號ヲ以テ改正)

第三十九條 臺灣總督府國語學校土語科ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ當分臺灣守備步兵隊ニ於テ服役スルコトヲ得(三十三年勅令第二百二十四號ヲ以テ追加)

第四十條 前條ニ依リ服役スル者ニ關シテハ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ(上全)

混成旅團長ハ部下ノ將校及軍醫ニ一年志願兵検査委員ヲ命シ身體検査其ノ他徵募ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第四十一條 第三十九條ニ依リ服役セント欲スル者ハ明治三十三年ニ限リ七月三十一日迄ニ第八條ノ願書ヲ差出スコトヲ得(上全)

○試補及判任官見習並非職休職ノ官吏一年志願兵服役方(明治三十三年三月勅令第六十二號)

朕試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

試補及判任官見習並非職「休職」ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルコトヲ得但有給者ハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限ニ算入セス

○陸軍六週間現役兵條例(明治二十八年十月勅令第四百一十一號)

朕陸軍六週間現役兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍六週間現役兵條例

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊(陸軍省令ニ在テハ最寄ノ歩兵隊)ニ編入シ服役セシム

三十一年陸軍省令第九號ヲ以テ施行細則ヲ定ム

(三十二年勅令第四百十五號ヲ以テ訂正ス)

第一條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日(舊曆ニ在テハ十月一日)トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長(獨立大隊ニ在テハ隊長)以下ノ官以下ノ官ニ依リ其ノ責ニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集

第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セ

第九條 陸軍六週間現役兵條例

第十條 陸軍六週間現役兵條例

第十一條 陸軍六週間現役兵條例

第十二條 陸軍六週間現役兵條例

第十三條 陸軍六週間現役兵條例

第十四條 陸軍六週間現役兵條例

第十五條 陸軍六週間現役兵條例

第十六條 陸軍六週間現役兵條例

第十七條 陸軍六週間現役兵條例

第十八條 陸軍六週間現役兵條例

第十九條 陸軍六週間現役兵條例

第二十條 陸軍六週間現役兵條例

第二十一條 陸軍六週間現役兵條例

第二十二條 陸軍六週間現役兵條例

第二十三條 陸軍六週間現役兵條例

第二十四條 陸軍六週間現役兵條例

第二十五條 陸軍六週間現役兵條例

第廿二條 徵發之可出左ノ如シ

一 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

二 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

三 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

四 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

五 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

六 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

七 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

八 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

九 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十一 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十二 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十三 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十四 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十五 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十六 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十七 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十八 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十九 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

二十 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

第五十病院

第廿四條 第廿五條 第廿六條 第廿七條 第廿八條 第廿九條 第三十條 第三十一條 第三十二條 第三十三條 第三十四條 第三十五條 第三十六條 第三十七條 第三十八條 第三十九條 第四十條 第四十一條 第四十二條 第四十三條 第四十四條 第四十五條 第四十六條 第四十七條 第四十八條 第四十九條 第五十條

一 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

二 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

三 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

四 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

五 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

六 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

七 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

八 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

九 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十一 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

十二 乘馬馬駕馬車輻其他運搬ニ供出ノ獸類及器具

九 製造場内機械室庫内ニテ...

第十六條 第十三條第四項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第三項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舎ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ糧食ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條 宿舎ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廢園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舎廢園ノ徵發ヲ課セラルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十三條第六項ニ掲クルモノハ其乘取入馬ノ食飼徵發要スルモノハ併セテ供給セシム
第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトヲ得

第二十五條...

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ候テ各個ニ分別シテ徵用スルモノト得ル其金額ニ據テ其操業者ノ徵用額トシテ之ヲ例トス
第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノハ其操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルモノト得ル其金額ニ據テ其操業者ノ徵用額トシテ之ヲ例トス

第二十七條 第十三條第七項ニ掲クルモノハ其操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルモノト得ル其金額ニ據テ其操業者ノ徵用額トシテ之ヲ例トス

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ其操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルモノト得ル其金額ニ據テ其操業者ノ徵用額トシテ之ヲ例トス但合圍地境内外ニ在リテハ其金額ニ據テ其操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルモノト得ル其金額ニ據テ其操業者ノ徵用額トシテ之ヲ例トス

第二十九條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ其輸送費ヲ其輸送者ノ自辨トス但戰時若クハ事變ニ際シテハ其輸送費ヲ其差出場所ノ自辨トス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ其輸送費ヲ其輸送者ノ自辨トス但戰時若クハ事變ニ際シテハ其輸送費ヲ其差出場所ノ自辨トス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論古ク其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シテハ其賠償額ヲ平時ノ賠償額ノ三倍トス

第三十二條 賠償額徵發區毎ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ其賠償額ニ其金額ニ據テ其賠償額トシテ之ヲ例トス

其賠償ノ持主者ノノ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出ツ可シ其届出ハ徵用
ノ引渡シ後左ノ期限ヲ越ス可カラズ若クハ期限ヲ越ス文ハ期限中持主者ノノ操業者ニ於テ徵用セシ
メタル無効トス

第三十二條 形船舶 第七日 賠償委員ノ告示タル時日面ニ於テハ
第三十一條 其他ノ物件 賠償委員ノ告示タル時日面ニ於テハ

第三十四條 第三十一條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ動三箇年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定
第三十五條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價
第三十三條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價
第三十四條 第三十一條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ動三箇年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定
第三十五條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第三十六條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價
第三十七條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第三十八條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第三十九條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十一條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十二條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十三條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十四條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十五條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十六條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十七條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十八條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第四十九條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

第五十條 第三十二條ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ買價トス但物件ト操業者トヲ各
個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ買價及借價ニ準シテ賠償スルモノトシ其郡區買價

二十三年法律
第三十二號
以十九號布告
第七

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及第十四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟識調和セザルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス但シ明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫クニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ致唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲ササルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スル權ヲ有スル官憲及徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ別官ヲ附加ス

一 出領ノ書類ヲシテ空欄ニ捺シハシムルハ罰金ニ處ス

第四〇條 徵發費用息納者處分並ニ其費用ヲ關涉シ出訴方「明治十六年八月」ハ「快」ニ關シニ當リ「徵發令」依リ負擔ス可キ費用ノ意納者「明治十五年十一月」第七十九號布告「依リ處分ス可シ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス

右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シ

○馬匹ノ調査及検査
明治二十九年四月
法律第六十六號

三十年陸軍省
令第四號ヲ以
テ本法ノ施行
規則ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル馬匹ノ調査及検査ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 戰時若ハ事變ノ際軍馬ノ補給ヲ確實ナラシムル爲馬匹ノ調査及検査ヲ行フ

第二條 馬匹ノ調査ハ島司、郡市町村長之ヲ行ヒ其ノ検査ハ陸軍官憲之ヲ行フ但シ検査ハ一年一回ヲ超ユルコトナシ

第三條 馬匹ノ所有者ハ馬匹ノ調査ニ必要ナル事項ヲ届出ヘシ

第四條 馬匹ノ所有者ハ指定ノ検査場ニ於テ馬匹ノ検査ヲ受クヘシ

馬匹ノ検査ヲ受ケタル馬匹所有者ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五條 徵發令ニ依リ徵發ヲ免除ヲ受クヘキ馬匹ニハ此ノ法律ヲ適用セズ

第六條 馬匹ノ調査及検査ヲ行フヘキ區域、時期、馬匹ノ種類、第三條ノ届出事項及第四條ノ手當、旅費ノ金額ニ關スル規程並此ノ法律施行ノ爲必要ナル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市長ノ職務ハ區長之ヲ行フ

市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ區長、戶長又ハ

第十二類 徵發費用息納者處分並ニ其費用ニ關スル出訴方 馬匹ノ調査及検査

之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第八條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○軍機保護法明治三十二年七月
法律第四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍機保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍機保護法

第一條 軍机上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處シ其ノ
情輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二條 職務ニ因リ軍机上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ知テ之
ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ有期徒刑ニ處ス

第三條 偶然ノ原由ニ因リ軍机上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ
知テ之ヲ他人ニ傳説交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ輕懲役ニ處ス

第四條 許可ヲ得スシテ軍港要港防禦港又ハ堡壘砲臺水雷術所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防
禦營造物ヲ測量寫眞攝影シ又ハ其ノ狀況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ
二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

因テ第一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重キニ從テ處斷ス

第五條 許可ヲ得ヌ又ハ詐偽ノ所爲ニ因リ許可ヲ得テ堡壘砲臺水雷術所其ノ他國防ノ爲建設シタル
諸般ノ防禦營造物内ニ入りタル者亦前條ノ例ニ同シ

第六條 本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯サントシテ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ同條ノ刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ其ノ財物ヲ沒收シ既ニ費消シタルトキハ其ノ價額ヲ
追徵ス

第八條 本法ハ刑法第二編第二章第二節外患ニ關スル罪陸軍刑法第二編第一章反亂ノ罪海軍刑法第
二編第一章反亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

○要塞地帶法明治三十二年七月
法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル要塞地帶法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

要塞地帶法

第一章 總則

第一條 要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條 要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距
離以内ニ於テ之ヲ定ム

三十二年陸軍
省令第二十號
海軍省令第二十號
本法施行規則
ヲ定ム

第三條 要塞地帯ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分テ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區 基線ヨリ測リ二百五十間以内及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區 基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區 基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條 要塞司令官鎮守府司令官要港部司令官及築城部本部長ハ要塞地帯ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帯内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條 陸軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帯及第七條第二項ノ區域内ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎮守府司令官要港部司令官之ヲ行フ

第六條 此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條第三條及第七條第二項ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章 禁止及制限

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、撰寫、錄取スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帯外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

第八條 要塞司令官ハ要塞地帯内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帯外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 第一區内ニ於テ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

- 一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫
- 二 浴室及固定竈爐
- 三 不燃質物ヲ以テ築造セル高さ二尺ヲ超ユル諸般ノ築造物
- 第十一條 第一區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ
 - 一 埋葬地
 - 二 水車及風車
 - 三 井
 - 四 容易ニ他ニ移動スヘカラサル器械器具ヲ備フル家屋

五 生垣及木造ノ圍牆

第十條第一號ニ於テ禁セサル家屋及倉庫

第十二條 第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 不燃質物ヲ以テ築造セル家屋及倉庫

二 埋葬地

三 不燃質物ヲ以テ築造セル高サ三尺ヲ超ユル諸般ノ築造物

第十三條 第一區第二區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屋内ト屋外トヲ問ハス累積スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 第一區内ニ於テハ高サ五尺、第二區内ニ於テハ高サ八尺以上ニ累積スル不燃質物及石炭類

二 第一區内ニ於テハ高サ一丈三尺、第二區内ニ於テハ高サ一丈七尺以上ニ累積スル薪炭及竹木材

第十四條 第一區第二區内ニ於テハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ家屋倉庫及諸般ノ築造物ヲ改築増築スルコトヲ得ス

第十五條 各區内ニ於テ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

一 地表ノ高低ヲ永久ニ變更スル土工即チ堆土、開墾等

二 溝渠、鹽田、排水及灌水

三 公園、育樹場、竹木林、菜園及桑茶畑

四 耕作地

第十六條 各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ新設若ハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第十七條 本章ノ禁止制限ニ違背シ新設改築増築變更シタル家屋倉庫其ノ他ノ築造物又ハ累積物等

ハ違背者ヲシテ期限ヲ定メテ之ヲ除去セシメ地形ノ變更ニ係ルモノハ之ヲ復舊セシメ期限内ニ除去復舊セサルトキ若ハ其ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ方法宜シキヲ得サルトキハ

官廳ニ於テ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項義務者ニ於テ負擔スヘキ費用ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ政府ハ國稅ニ次キ先取權ヲ有ス

本條ノ處分ハ第十六條ノ違背者ニ就テハ陸軍大臣之ヲ爲シ其ノ他ノ違背者ニ就テハ要塞司令官之ヲ爲スヘシ

第十八條 地帯ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受タル日ヨリ三十日以内ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十九條 陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域内ニ限り特ニ本章禁止制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得

トキ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ
 第二十條 本章ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ
 陸軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ニシテ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域
 ト相關聯スル場合若ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合並陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第
 七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ掲クル許可又
 ハ承認ヲ爲シ若ハ第十九條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當
 該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第二十一條 陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條第九條第十一條乃至第十五條ニ掲クル事項ヲ爲サント
 スルトキハ要塞司令官ノ承認第十六條ニ掲クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受ク
 ルコトヲ要ス

第三章 罰則

第二十二條 第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓
 以下ノ罰金ニ處ス第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサル者亦同シ

第二十三條 第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條 第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違犯シタル者ハ二圓以上四十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第二十五條 第十四條ニ違犯シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲ニ設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移
 轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金
 ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四章 雜則

第二十七條 要塞地帶創設告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、増築中ニ係ルモノハ此
 ノ法律ノ禁止制限ヲ適用セス

第二十八條 要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル標石、標木若ハ標札ノ類ヲ建設スル爲
 ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ノ規定ヲ準用
 ス

第二十九條 此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第三十條 此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第三十一條 明治三十一年勅令第七十六號ハ此ノ法律ニ依リ第三條又ハ第六條ノ告示ヲ爲シタル
 箇所ニ限リ其ノ效力ヲ失フ

第十三類 衛生

○傳染病豫防法 明治三十年四月 法律第三十六號

沿革 明治三十年八月内務省令第七十九號ヲ以テコレヲ病豫防法心得方ヲ違ス○同年十月同省令第九十一號遂テ以テ
列刺病豫防ニ就キ沿海諸港ニ於テ内外國船舶出入取扱方ヲ定ム○同年十二月同省令第九十七號遂テ以テ
列刺病流行地方ニ於テ冬日近寒ノ時ニ乘シ便所下水糞等修繕淨除ノ方法ヲ設ケ該處再册ノ豫防ニ注意セシム○十二
年六月第二十三號布告ヲ以テ列刺病豫防規則ヲ制定ス○同年八月第三十二號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十三年七
月第三十四號布告ヲ以テ十二年第三十二號布告ヲ廢シ更ニ傳染病豫防規則ヲ制定ス○三十年四月法律第三十六號ヲ以
テ傳染病豫防法ヲ制定シ前則ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布姪
利亞(格魯布
チ含ム)及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之
ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全
部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且
直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ

三十年内務省
令第十一號ヲ
以テ本則ノ施
行規則ヲ定ム

轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近隣ノ家又ハ患家ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近隣ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

三十年内務省
令第十三號
依テ第六條ヲ定
ル方法ヲ定

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長又ハ管理人ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムルヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防

三十年内務省
令第十五號
以テ檢査
ニ依リ檢
定スル
定

三十年内務省
令第十九號
以テ檢査
ニ依リ檢
定スル
定

上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ
傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務
ヲ擔任セシメ及特ニ船舶瀛車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶瀛車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶瀛車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑
アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶瀛車中ニ乗込マシムルコトヲ得
船舶瀛車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ其地市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシム
ルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方
長官ニ請求スルコトヲ得

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶瀛車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ
得

- 一 傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコト
- 二 市街村落ノ全部及ハ一部ノ交通ヲ遮斷スルコト
- 三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
- 四 古著、襪履、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄
スルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト

六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命シ又ハ汽車船舶若ハ多數人民ノ集合スル場所ニ豫防上必要ノ設備ヲ爲
サシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、井溜、厠園ノ新設改築變更若ハ廢止
ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其
ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各
其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

- 第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
 - 一 豫防委員ニ關スル諸費
 - 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
 - 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル
諸費
 - 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、甲祭料

六 第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

一 檢疫委員ニ關スル諸費

二 船舶又ハ汽車ノ檢疫ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費

其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スル

三十年内務省
令第十八號ヲ
附則ニ關スル
件ヲ定ム

モノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セシム又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ期限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セシム若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ期限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ料科ニ處ス

第十三編 傳染病豫防法

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サヌ又ハ
虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者第五條第二
項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ
届出ヲ爲サシメヌ若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル
事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地
ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十
年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○海港檢疫法明治三十二年二月

三十二年內務省令第三十四號
施行規則ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海港檢疫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海港檢疫法

第一條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫
ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニ非サレハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物
件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ檢疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケ許
可證ヲ得ルニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコ
トヲ得ス

第三條 船長其ノ他ノ乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乗組員ハ
檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ
船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船ハ航海
中船客又ハ乗組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ汚染シタル疑アルトキニ
限リ其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其

ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

- 一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ
- 二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ
- 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シタルモノ
- 三條第二項ノ船舶ハ患者發見ノ時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ連掛スルモノトス

第五條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行セサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者ヲ發生シタルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ檢疫信號ヲ掲ケ其ノ地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行スル港ニ廻航シテ檢疫ヲ受クヘシ

第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ命令ノ定ムル期間停船ヲ命シ患者死者ノ處分ヲ指示シ船舶其他ノ物件ノ消毒法ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ船客乗組員ヲ檢疫所ニ移轉セシムルコト
- 二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

- 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ其ノ船舶ニ傳染病ニ汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 四 停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ依リ處分スルコト
- 五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ本船其他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條 船舶及物件ノ消毒ハ檢疫官吏之ヲ施行シ船長其ノ他ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ圖シ之ヲ補助スルノ義務アリ

前項ノ消毒費ハ船主船長若ハ其ノ代理人ヨリ徵收ス

第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス

本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徵收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ事實ヲ答辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セザルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其ノ旨ヲ明告スヘシ

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其ノ艦ト陸地又ハ他船トノ交通乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 明治十二年第二十九號布告明治十五年第三十一號布告明治二十四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○種痘規則 明治十八年十一月第三十四號布告

沿革略記 明治三年四月府縣ニ種痘法ヲ人民ニ普及セシム●四年十一月文部省ヨリ種痘ノ免許狀並痘苗分與等取扱方ヲ各府縣ニ達ス●七年十月文部省第二十七號布告ヲ以テ種痘規則ヲ定ム●九年四月内務省甲第八號布告ヲ以テ文部省布達ノ種痘規則ヲ變更シ種痘規則ヲ定ム●同年五月内務省甲第十六號布告ヲ以テ天然痘預防規則ヲ定ム●十八年十一月第三十四號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ種痘規則ヲ定ム

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年内務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハザルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘済ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未満ノ者ノ會長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事「縣令」ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度「内務卿」ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法規則ハ府知事「縣令」ニ於テ便宜取設ケ「内務卿」ニ届出ヘシ

○血清及痘苗代價登記印紙ヲ以テ納ム 明治二十九年六月 勅令第二百五十九號

朕血清及痘苗代價納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ納ムヘキ血清及痘苗代價ハ其ノ金額ニ相當スル「登記印紙」ヲ以テ納ムシムルコトヲ得
本令ハ明治二十九年七月一日ヨリ施行ス

三十一号勅令
第四百十號收
入印紙券和

○牛豚類糞採取 明治六年五月 勅令第六十三號布告

方今牛豚類ノ糞盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ糞糞ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前糞糞ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退糞糞可致事

但東京府下米引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ糞糞不相成候尤乳汁摺取ノタメ糞糞候ハ被差許候へ共不潔臭穢ノ儀モ有之候へハ詮議ノ上可令取拂事

○賣藥規則 明治十年一月 第七號布告

沿革略記

明治三年十二月賣藥取締ノ事務ヲ大學東校ノ所轄ト爲シ且從來賣藥ノ内有名無實ニシテ猥リニ勸許御免等ノ文字ヲ用フルヲ禁シ神祕ノ名ヲ假リ或ハ偽秘法ト唱へ小民ヲ欺キ利ヲ射ルノ弊害ヲ除キ爾後有益ノ藥法ヲ

施行シテ之レカ方法檢査規則手續等ヲ開申セシム○同年十二月賣藥取締規則ヲ頒布ス○五年七月第貳百貳號ヲ以テ前令廢止ノイテ布告ス○六年十二月第百二十九號布告ヲ以テ賣藥取締更ニ安部省ノ管理ト爲シ藥味分量及用法等取關

製劑ヲ添へ同省ノ檢査ヲ受ケレム○八年六月第百十二號布告ヲ以テ衛生ノ事務ヲ内務省ニ屬セシム○十年一月第七號布告ヲ以テ賣藥規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

賣藥規則別加ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

第十三類 血清及痘苗代價登記印紙ヲ以テ納ム 牛豚類糞採取 賣藥規則

賣藥規則

第一章

- 第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ
(十年第八十九號布告三十三) 年法律第十四號ヲ以テ改正)
- 第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量効能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許證札ヲ受クヘシ
(十一年第二十七號布告ヲ以テ其管轄廳) (ノ下)テ經山シテ內務省ノノ八字ヲ附ル)
- 但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製シ又ハ二箇所以上ニ於テ外國賣藥ヲ輸入スル時ハ其箇所毎ニ免許證札ヲ受クヘシ
(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加) (加三十三)年法律第十四號ヲ以テ改正)
- 第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ
(十一年第二十七號布告ヲ以テ內務省ヲ管轄) (十一年第二十七號布告ヲ以テ但書追加) (十一年第二十七號布告ヲ以テ但書追加) (十一年第二十七號布告ヲ以テ但書追加)
- 第四條 「第八條ニ記シタル期限中」藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊證札ヲ返納シ更ニ新證札ヲ願受クヘシ
- 輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル外國賣藥ノ藥味分量用法服量能書ヲ外國ニ於テ改正シタルトキハ其賣藥ヲ輸入販賣セント欲スルモノ亦前項ニ同シ
(三十三)年法律第十四號ヲ以テ但書追加)
- 第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許證札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許證札ヲ受クヘシ
(十年第八十九號布告ヲ以テ改正) (十一年第二十七號布告ヲ以テ但書追加)
- 第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ
- 第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルハ

十九年勅令第七十二號ヲ以テ營業免許期限ヲ

- ハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商證札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ
- 第八條 「營業證札請賣證札行商證札」其證札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚免許ヲ得ント欲スルモノハ舊證札ヲ返納シ更ニ新證札ヲ願受クヘシ
- 第九條 「第八條ニ記シタル期限中」第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新證札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ
- 第十條 「免許期限内」ト雖トモ「其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗悪ニシ又ハ粗悪ニシタル外國賣藥ヲ輸入販賣スル等ノコトアル時ハ直ニ證札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
(十一年第二十七號布告三十三) (法律第十四號ヲ以テ改正追加)
- 第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラ、ル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス
- 第十二條 請賣札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ
- 第十三條 免許證札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ
- 第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者「免許期限中」其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ
(十年第八十九號) (布告ヲ以テ改正)
- 第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸證札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ(十四年第十六號律書ヲ以テ廢止營業者ノ下及ヒ請賣者ノ十五字及ヒ賣藥營業者ノ下及ヒ請賣者ノ十五字及ヒ賣藥營業者ノ下及ヒ請賣者ノ十五字)

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ(十五年第五號律書ニ依リ但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘシ)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ(十一年第四號律書ニ依リ税金納期改正)

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ(十一年第二十七號律書ニ依リ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科ス

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ一又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者一及ヒ無鑑札ノ者一シテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科ス

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ許可ヲ經スシテ無標ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ衝惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ

藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(三十三年法律第十四號ニ依リ罰金科率改正)

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第十六號律書ヲ以テ營業者ノ下及ヒ請賣者ノ十五字及ヒ賣藥營業者ノ下及ヒ請賣者ノ十五字)

第二十四條 諸種札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者又ハ有毒藥ヲ配伍シタル外國賣藥ヲ私ニ輸入販賣スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(三十三年法律第十四號ニ依リ)

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賣トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

〇〇

二十二年內務省令第三號ヲ以テ施行スル藥劑師法ニ依リテ定ムル

○藥品營業並藥品取扱規則 明治二十二年三月

沿革略記 明治七年九月文部省ヨリ醫藥取扱方法ヲ東京京都大阪ノ三府ニ達ス○同年十二月藥品ノ賣買取締方法ヲ三府ニ達ス○十年二月第二十號布告ヲ以テ藥劑師取扱規則ヲ制定ス○十三年一月第一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥品取扱規則ヲ制定ス○二十二年三月法律第十號ヲ以テ藥品營業並藥品取扱規則ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齢滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ヘシ

第四條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅)

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀替換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條 (二十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅)

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非ラサレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ處アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ關乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省畧シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモ

ハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國

二十五年内務省令第二號ノ品目ヲ定ム

語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證書ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第十七條第十九條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之ヲ爲ス必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事ニ之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ら診スル患ノ處方ニ限リ第十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ

於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコト得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有

第四十五條 「阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル」

第四十六條 醫科大學藥學科及高等「中」學校醫藥學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者

ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣

ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(二十五年法律第六號ヲ以テ「醫科大學藥學科」
「下」及「高等中學校」云々ノ十二字ヲ加フ)

外國ノ大學藥學部若ハ藥學校ニ於テ卒業シタル者又ハ外國ニ於テ藥劑師免許ヲ得タル者ニシテ年

齡滿二十年以上ノ者ハ其ノ卒業證書若ハ開業證書ヲ以テ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場

合ニ於テハ內務大臣ハ其ノ證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(三十二年
法律第六號ヲ以テ
本項追加)

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

三十年法律第
二十七號ヲ以
テ十一號布告
廢止ス

○阿片法明治三十年三月
法律第二十七號

沿革略記

明治三十年八月布告ヲ以テ生阿片取扱規則ヲ制定ス●十一年八月第二十一號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ總用阿片賣
買施製造規則ヲ制定ス●三十年三月法律第二十七號ヲ以テ阿片法ヲ制定シ前則ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル阿片法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

阿片法

第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫兒比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ

其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス

第三條 阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限り封緘ヲ施シ之ヲ賣下クルモノトス

政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條 第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及賠償金額竝ニ第三條ニ依リ賣下ク

ヘキ阿片ノ價格ハ內務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量ヲ増加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルコトキハ一箇年以

三十二年勅令
第六十五號ヲ
以テ阿片賣下
代價ハ收入印
紙ヲ以テ納メ
ル

前ニ告示スヘシ

第五條 阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限り卸賣人ヲ指定シテ賣下ケ

シム

第六條 醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量竝ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證

書ヲ以テ卸賣人ヨリ購求スヘシ

醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ

場合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ

第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處分箋ヲ以テスルニ非ラサルハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニ

ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハズ政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコト

ヲ得ス

第八條 處方箋竝ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓

以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケズシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒

收ス

第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 阿片製造人又ハ阿片卸賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スヲ得

附則

第十四條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條 此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス

第十七條 明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買并ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○醫師免許規則 明治十六年十月三十一日

沿革略記

明治六年六月文部省第八十九號達ヲ以テ現時醫術開業者ノ明細書及獎勵ノ人員等ヲ申達セシム
七年三月文部省達ヲ以テ醫制ヲ定メ先ツ三府ニ於テ漸次施行セシム
八年二月文部省ヨリ醫制ニ基キ新ニ醫術開業者ノ試驗科目ヲ三府ニ達ス
同年四月醫制ヲ改正ス
同年六月第百拾貳號布告ヲ以テ文部省管理衛生ノ事務ヲ内務省ニ屬ス
九年一月内務省ハ第五號達ヲ以テ新ニ醫術開業者ノ試驗科目ヲ定ム
十年八月内務省ハ第七十六號達ヲ以テ維新以來官廳及地方公立病院ニ於テ醫術ヲ以テ奉職從事ノ者ハ試驗ヲ須ヒス免狀渡方ヲナサシム
十二年二月内務省ハ第三號達ヲ以テ文部省ヨリ認可ヲ得タル醫學校ノ卒業生ハ試驗ヲ要セス開業免狀ヲ下付スルモノトス

年八月第三十九號布告ヲ以テ醫師タル者醫業ニ關シ犯罪者クハ不正ノ行爲アルトキハ其業ヲ停止若クハ禁止ス
年十月第三十五號布告ヲ以テ醫師免許規則ヲ制定ス

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年第四號布達同年八月三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ「内務卿」ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ「内務卿」ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ「内務卿」ハ其證書ヲ審査シテ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事「縣令」ノ具狀ニヨリ「内務卿」ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 (明治十九年法律第二十七號ヲ以テ消滅)

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ヲ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方
廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツヘシ

第九條 (二十九年法律第二
十七號ヲ以テ消滅)

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ內務省ニ返納スヘシ
第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經「內務卿」ニ於テ
其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取
上ケ之ヲ內務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏
書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ
第十三條 「內務卿」ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ調査シ中央衛生會ノ審議
ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

二十三年農商
務省令第十一
號ヲ以テ獸醫
免狀試驗規則
ヲ定ム

○獸醫免許規則 明治二十三年八月
法律第七十六號
沿革略記 明治十八年八月第二十號布告ヲ以テ獸醫免許規則ヲ制定ス●二十三年八月法律第七十六號ヲ以テ前令ヲ改
朕獸醫免許規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

獸醫免許規則

第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條 獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 獸醫免許試驗ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者
- 一 官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書
ヲ有スル者
- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ
卒業證書ヲ有スル者

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證
書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方
廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 (二十九年法律第二
十七號ヲ以テ消滅)

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ
免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

二十一年農商
務省令第十八
號ヲ以テ學則
ヲ定ム

第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 獸醫業停止中其業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル規定ハ總テ廢止ス

三十二年內務省令第四十七號
試驗規則ヲ定ム
三十二年內務省令第四十八號
試驗規則ヲ定ム
三十二年內務省令第四十九號
試驗規則ヲ定ム

○產婆規則 明治三十二年七月 勅令第三百四十五號

朕樞密顧問ノ諮諭ヲ經テ產婆規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

產婆規則

第一條 產婆試驗ニ合格シ年齒滿二十歲以上ノ女子ニシテ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ非ラズ產婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 產婆試驗ハ地方長官之ヲ舉行ス

第三條 一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非ラズ產婆試驗ヲ受ケタルコトヲ得ス

第四條 產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

產婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ產婆試驗合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出シヘシ

產婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出シヘシ

產婆名簿ノ登錄事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第五條 產婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ產婆名簿ノ登錄ヲ願出シヘシ

前項ノ登錄換ヲ爲ササル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 產婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登錄ヲ願出シヘシ

產婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取
消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第七條 產婆ハ妊婦產婦稱婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自
ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 產婆ハ妊婦產婦稱婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用井藥品ヲ投與シ又ハ
之ガ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り瀉腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 產婆ハ產婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ妊婦產婦稱婦又ハ胎兒生兒ヲ取扱フ專任スルコトヲ
得ス

第十條 產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル
トキハ地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登録前ニ犯シタ
ル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條 試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登
録ヲ受ケタルトキハ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解
除スルコトヲ得

第十三條 產婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ產婆名簿ニ登録ヲ願出ツル者ニシテ試驗又ハ登録ノ以前
墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規

程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登録ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條 產婆ニシテ三箇年其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ癡癲白痴不具癡疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ
堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ產婆名簿ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十五條 產婆名簿ノ登録、登録ノ取消、主要ナル登録事項ノ訂正並產婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解
除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 產婆名簿ニ登録ヲ受ケスシテ產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 二 產婆名簿ノ登録ヲ取消サレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 三 產婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 四 第三條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
- 五 第七條乃至第九條ニ違背シタル者

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處フ
附則

第十八條 本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ產婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本
令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ產婆名簿ニ登録ヲ受ケタルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ產婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履歷ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内
ノ期限ヲ定メ產婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

第二十條 前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ產婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ產婆名簿ニ登録スル限ニ在ラス
本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

検査委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ死體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ病性ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ検査委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ留シタル場所、汽車、船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長、船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ検査委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條 此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病性ニ汚染シタル物品ヲ埋却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 第四條、第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テ地方長官ハ三人以上ノ評價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一 牛疫、鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕痘、刺刺、豕痘、斯疫ニ罹リ撲殺シタル獸類

評價額三分ノ一

二 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類

評價額五分ノ三

三 牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊

評價額五分ノ四

四 燒棄又ハ埋却シタル物品

評價額二分ノ一

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭百五十圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 此ノ法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタルトキハ手當金ヲ下付セス(三十三年法律第八號ヲ以テ第六號追加)

一 第二條ニ違背シ届出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品

二 第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品

三 狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病性汚染ノ疑アル物品

四 第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品

五 第十五條ノ命令ニ違背シ検査ヲ受ケス又ハ輸入シタル獸類及物品

六 有病地ヨリ輸入シタル獸類及物品

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入、往來、疫病傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類

ノ種類ヲ限リ其ノ市場、共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第十四條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ検査ヲ行フコトヲ得

第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危険アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ検査ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第十六條 獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫、府縣、市町村及一個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 第四條第一項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者、及第十五條ノ検査ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十八條 第七條、第八條第一項第二項、第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條 第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條 第一條ニ掲ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○獸疫豫防ニ關スル費用負擔ノ區分明治二十九年十一月
勅令第三百七十七號

朕獸疫豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治二十九年法律第六十號獸疫豫防法第十六條ニ依リ獸疫豫防ニ關スル費用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

一 獸類撲殺及物品棄却手當

一 臨時獸醫備入手當及旅費

一 検査委員ニシテ市町村吏ニ非サル者ノ旅費(三十二年勅令第七
十二號ヲ以テ追加)

一 評價人手當及旅費

第二 左ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

一 消毒用藥品費

第十三條 獸疫豫防ニ關スル費用負擔ノ區分

- 一 器具器械費
 - 一 被服費
 - 一 通信費及器具器械運搬費
 - 一 家屋其ノ他借料
 - 一 雜費
- 第三 左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス
- 一 一人夫傭入費
 - 一 標示費
- 第四 左ノ費用ハ一個人ノ負擔トス
- 一 獸類ノ撲殺及其ノ屍體並物品ノ棄却ニ要スル費用
 - 一 檢疫獸類ノ繫留ニ要スル飼料其ノ他雜費
- 第二條 獸疫豫防法第十五條ニ依リ設置スル檢疫所ノ費用及朝鮮釜山ニ於ケル牛疫豫防費ハ前條第四ニ掲クルモノヲ除クノ外總テ國庫ノ負擔トス
- 第三條 北海道廳及沖繩縣ニ於テハ當分ノ内府縣及市町村ノ負擔ニ屬スル費用ハ國庫ノ負擔トス

○汚物掃除法明治三十三年三月
法律第三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル汚物掃除法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

汚物掃除法

- 第一條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ
- 第二條 市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ
- 第三條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス
- 第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得
- 第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得
- 第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履

行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ
前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得
第九條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

○

○下水道法明治三十三年三月
法律第三十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル下水道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

下水道法

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル

排水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工並竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徴收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ價金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ
立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得
第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セズ又ハ之ヲ履
行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ履行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨ス
シ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内
ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得
第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造
スルコトヲ得

第十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

附則

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ効力ヲ妨ケズ
第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

○第十四類 度量衡、貨幣

○度量衡法明治二十四年三月
法律第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

度量衡法

第一條 度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金、「イリヂウム」合金製ノ棒及分銅トス其棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝
氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

毛 尺ノ萬分ノ一

厘 尺ノ千分ノ一

分 尺ノ百分ノ一

寸 尺ノ十分ノ一

尺

丈 十尺

間 六尺

町 三百六十尺(六十間)
里 一萬二千九百六十尺(三十六町)

地積

勺 歩ノ百分ノ一

合 歩ノ十分ノ一

步或ハ坪 六尺平方

畝 三十步

段 三百步

町 三千步

量

勺 升ノ百分ノ一

合 升ノ十分ノ一

升 六萬四千八百二十七立方分

斗 十升

石 百升

衡

毛 貫ノ百萬分ノ一

厘	貫ノ十萬分ノ一	〇〇〇〇〇〇〇〇
分	貫ノ萬分ノ一	〇〇〇〇〇〇〇〇
匁	貫ノ千分ノ一	〇〇〇〇〇〇〇〇
斤	百六十匁	〇〇〇〇〇〇〇〇
度	第四條 從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限り之ヲ用非ルコトヲ得 鯨尺一尺ハ一尺二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一寸、百分ノ一ヲ鯨尺一分トス 第五條 「メートル」法度量衡ハ左ニ掲クル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本條以下ノ規定ヲ適用ス	
毛	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇 ^R 〇〇〇〇〇〇〇〇
厘	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
分	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
寸	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
尺	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
丈	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
間	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
町	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇

里	〔三九二七、二七二七三 十一分ノ四萬三千二百〕	
地積	〔〇〇〇〇三三 三〇〇〇二五五分ノ一〕	
合	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	〇 _二 三〇二五〇
勺	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇
歩	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇
畝	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇
段	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇
町	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇
量	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇
勺	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇〇
合	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
升	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
斗	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
石	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
衡	〔三〇〇〇三三 三〇〇〇三三 三〇〇〇三三〕	三〇〇二五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

毛	〇〇〇三七五	「ミリグラム」	〇〇〇三七五
厘	〇〇三七五〇	「センチグラム」	〇〇〇三七五〇
分	〇三七五〇〇	「デシグラム」	〇三七五〇〇
匁	三七五〇〇〇	「グラム」	三七五〇〇〇
貫	三七五〇、〇〇〇〇	「デカグラム」	三七五〇、〇〇〇〇
斤	六〇〇、〇〇〇〇	「ヘクトグラム」	六〇〇、〇〇〇〇
		「キログラム」	六〇〇、〇〇〇〇

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス
農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器ニ組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス
副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ
地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第八條 度量衡器ヲ製作シ修葺シ若ハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免
許ヲ受クヘシ

製作ノ免許ヲ得タル者ハ修葺及販賣ヲナスコトヲ得
販賣ノ免許ヲ得タル者ハ秤秤ノ取緒及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノニ限り修葺ヲ爲スコトヲ得

免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 度量衡器ヲ製作シ修葺シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ

營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修葺シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ

製作者、修葺者及販賣者俾料ノ取給及錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修葺ヲ爲シタルトキハ其ノ檢定ヲ受クルコトヲ要セス(二十六年法律第三號ヲ以テ本項追加)

官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ醫院、病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買、授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス

地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作者、修葺者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タルノ證書ヲ携帶シテ之ヲ示スヘシ

第十三條 度量衡器ノ製作、修葺及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ、檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納

ムヘシ

免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者修葺者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修葺シテ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

附則

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル修葺之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ

三十年農商務省令第十一號
ナリ以テ本法ノ施行規則ヲ定ム

檢定ヲ經サルモノハ其期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス
 第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修繕シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ
 檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百三十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七號布告度量衡
 改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬
 檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

○ 度量衡器ノ制限其ノ製作修繕及販賣免許并檢定 明治三十年四月
 勅令第三百十六號

沿革略記 明治二十四年八月勅令第三百七十七號ヲ以テ度量衡器ノ制限製作修繕及販賣免許并檢定規則ヲ制定ス●三十
 年四月勅令第三百十六號ヲ以テ前則ヲ廢止シ更ニ度量衡器ノ制限其ノ製作修繕及販賣免許并檢定方ヲ定ム

朕度量衡器ノ制限、其ノ製作、修繕及販賣ノ免許並檢定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 度量衡器ノ種類、形狀及物質ヲ定ムルコト左ノ如シ

度量器		形狀	物質	種類
直	角形	金屬、象牙、骨、竹、木	直尺	十二尺以下 四メートル以下
		竹、木	鯨尺	三尺以下
直	角形	金屬	曲尺	長枝三尺以下 長枝二メートル以下
		屬		

形狀	物質	種類	寸法	容積	秤	
					種類	寸法
圓	金	一	寸	立方分	種	寸法
		二	寸	立方分	種	寸法
		三	寸	立方分	種	寸法
		五	寸	立方分	種	寸法
		一	寸	立方分	種	寸法
直	金屬、或、麻布	狀	尺	卷尺	種	寸法
		狀	尺	卷尺	種	寸法
		狀	尺	卷尺	種	寸法
		狀	尺	卷尺	種	寸法
直	竹、木	狀	尺	疊尺	種	寸法
		狀	尺	疊尺	種	寸法
		狀	尺	疊尺	種	寸法
		狀	尺	疊尺	種	寸法

第十四條 度量衡器ノ制限其ノ製作修繕及販賣免許并檢定

三十年三月十七

第三十一號
 第三十一年勅令
 第三十一年勅令
 第三十一年勅令
 第三十一年勅令

第三十三號
 第三十四號
 第三十五號
 第三十六號
 第三十七號

圓形及圓錐形										圓形										
玻璃					銀杏、構、松					銀杏、構、松					銀杏、構、松					
五合	二合五勺	二合	一合	五勺	二勺	一勺	三斗	二斗五升	二斗	一斗	五升	二升	一升	五合	二合五勺	二合	一合	五勺	二勺	一勺
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三三三三三	一六二六七五	一三九六五四〇	六四八二七〇	三三三三三	二九六五四〇	一六二六七五	三三三三三	二九六五四〇	一六二六七五	三三三三三	二九六五四〇	一六二六七五	三三三三三	二九六五四〇	一六二六七五	三三三三三	二九六五四〇	一六二六七五	三三三三三	二九六五四〇
一リツ	二リツ	三リツ	四リツ	五リツ	六リツ	七リツ	八リツ	九リツ	十リツ	十一リツ	十二リツ	十三リツ	十四リツ	十五リツ	十六リツ	十七リツ	十八リツ	十九リツ	二十リツ	二十一リツ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

第十四號 廣益商會ノ制定其ノ製法修繕及販賣免許并檢定

千五百三十九

圓形										圓形										
鐵					鐵					鐵					鐵					
二合	一合	五勺	一升	五合	二合五勺	二合	一合	五勺	一升	五合	二合五勺	二合	一合	五勺	一升	五合	二合五勺	二合	一合	五勺
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二二二二二	一一一一一	五五五五五	一〇一〇一〇一〇	二二二二二	一一一一一	五五五五五	一〇一〇一〇一〇	二二二二二	一一一一一	五五五五五	一〇一〇一〇一〇	二二二二二	一一一一一	五五五五五	一〇一〇一〇一〇	二二二二二	一一一一一	五五五五五	一〇一〇一〇一〇	二二二二二
一リツ	二リツ	三リツ	四リツ	五リツ	六リツ	七リツ	八リツ	九リツ	十リツ	十一リツ	十二リツ	十三リツ	十四リツ	十五リツ	十六リツ	十七リツ	十八リツ	十九リツ	二十リツ	二十一リツ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

第十四號 廣益商會ノ制定其ノ製法修繕及販賣免許并檢定

千五百三十六

金 屬	天 秤
金 屬	臺 秤
金屬、象牙、骨、黑檀、紫檀、櫻	桿 秤

第一條ノ二 二寸以上ノ量器ハ滿ヲ量ルトキニ限リ之ヲ用ウルコトヲ得(三十三年勅令第二百四十二號ヲ以テ追加)
 第二條 營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ明治三十二年ニ之ヲ檢定シ爾後五年目毎ニ之ヲ檢定ス
 第三條 度量衡器ノ公差ヲ定ムルコト左ノ如シ
 但シ分銅ハ兩減ヲ許サス

度量器ノ公差		金屬製度量器	
全 長	目 盛	全 長	目 盛
一尺未滿	0.50	五「デシメートル」未滿	0.1
一尺以上	0.50	五「デシメートル」以上	0.1
二尺未滿	0.75	一「メートル」未滿	0.2
二尺以上	0.75	一「メートル」以上	0.2
五尺未滿	1.50	二「メートル」未滿	0.5
五尺以上	1.50	二「メートル」以上	0.5
十尺未滿	3.00	五「メートル」未滿	1.0
十尺以上	3.00	五「メートル」以上	1.0
三十尺未滿	10.00		

竹、木、骨、象牙製度量器		草、麻布製度量器	
全 長	目 盛	全 長	目 盛
三十尺以上	一寸以上	十「メートル」未滿	5「センチメートル」以上
三十尺未滿	一寸以上	十「メートル」以上	5「センチメートル」以上
一尺未滿	0.5	五「デシメートル」未滿	0.5
一尺以上	0.5	五「デシメートル」以上	0.5
二尺未滿	0.8	一「メートル」未滿	0.5
二尺以上	0.8	一「メートル」以上	0.5
五尺未滿	1.5	二「メートル」未滿	0.5
五尺以上	1.5	二「メートル」以上	0.5
十尺未滿	3.0	五「メートル」未滿	1.0
十尺以上	3.0	五「メートル」以上	1.0
三十尺未滿	10.0		

第十四節 度量衡器ノ制限其ノ製作修理及販賣免許并檢定

第十四類 度量衡器ノ製造及販賣免状付付表

全長	目盛	全長	目盛
三尺以下	五厘以上	一「メートル」以下	一「ミリメートル」以上
六尺以下	一寸以上	二「メートル」以下	五「ミリメートル」以上
十尺以下	一寸以上	五「メートル」以下	五「ミリメートル」以上
十二尺以下	一寸以上	十「メートル」以下	五「ミリメートル」以上
十八尺以下	一寸以上	十五「メートル」以下	五「ミリメートル」以上
三十尺以下	一寸以上	二十「メートル」以下	五「ミリメートル」以上
六十尺以下	一寸以上	三十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六十六尺以下	一寸以上	四十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九十尺以下	一寸以上	五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
百尺以下	一寸以上	六十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
百二十尺以下	一寸以上	七十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
百五十尺以下	一寸以上	八十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
百六十尺以下	一寸以上	九十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
百八十尺以下	一寸以上	百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
二百尺以下	一寸以上	百二十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
二百五十尺以下	一寸以上	百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
三百尺以下	一寸以上	二百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
三百六十尺以下	一寸以上	二百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
四百尺以下	一寸以上	三百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
四百六十尺以下	一寸以上	三百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
五百尺以下	一寸以上	四百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
五百六十尺以下	一寸以上	四百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六百尺以下	一寸以上	五百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六百六十尺以下	一寸以上	五百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
七百尺以下	一寸以上	六百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
七百六十尺以下	一寸以上	六百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
八百尺以下	一寸以上	七百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
八百六十尺以下	一寸以上	七百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九百尺以下	一寸以上	八百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九百六十尺以下	一寸以上	八百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
一千尺以下	一寸以上	九百「メートル」以下	五「センチメートル」以上
一千六十尺以下	一寸以上	九百五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
二千尺以下	一寸以上	一千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
二千六十尺以下	一寸以上	一千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
三千尺以下	一寸以上	二千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
三千六十尺以下	一寸以上	二千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
四千尺以下	一寸以上	三千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
四千六十尺以下	一寸以上	三千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
五千尺以下	一寸以上	四千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
五千六十尺以下	一寸以上	四千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六千尺以下	一寸以上	五千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六千六十尺以下	一寸以上	五千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
七千尺以下	一寸以上	六千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
七千六十尺以下	一寸以上	六千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
八千尺以下	一寸以上	七千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
八千六十尺以下	一寸以上	七千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九千尺以下	一寸以上	八千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九千六十尺以下	一寸以上	八千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
一万尺以下	一寸以上	九千「メートル」以下	五「センチメートル」以上
一万六十尺以下	一寸以上	九千五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
二万尺以下	一寸以上	一万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
二万六十尺以下	一寸以上	一万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
三万尺以下	一寸以上	二万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
三万六十尺以下	一寸以上	二万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
四万尺以下	一寸以上	三万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
四万六十尺以下	一寸以上	三万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
五万尺以下	一寸以上	四万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
五万六十尺以下	一寸以上	四万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六万尺以下	一寸以上	五万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
六万六十尺以下	一寸以上	五万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
七万尺以下	一寸以上	六万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
七万六十尺以下	一寸以上	六万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
八万尺以下	一寸以上	七万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
八万六十尺以下	一寸以上	七万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九万尺以下	一寸以上	八万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
九万六十尺以下	一寸以上	八万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上
十万尺以下	一寸以上	九万「メートル」以下	五「センチメートル」以上
十万六十尺以下	一寸以上	九万五十「メートル」以下	五「センチメートル」以上

千四百四十四

三十三年勅令
第二百四十二
号ヲ以テ木
改正

量器ノ目盛	容量ノ公差	量器ノ目盛	其容量ノ百分ノ一
木製鐵製及ニ升又ハ「五」リットル以上ノ金屬製量器	二升又ハ五「リットル」以下	全量ノ百分ノ一	
リ「二」以上ノ金屬製量器	二升又ハ二「リットル」以下	全量ノ百分ノ一	
玻璃製量器	各目盛	其容量ノ百分ノ一	
水重一升及三「リットル」ノ公差	（三十一勅令第三百三） 十六號ヲ以テ本欄追加		
一合	一「センチリットル」		
二合	二「センチリットル」		
三合	三「センチリットル」		
四合	四「センチリットル」		
五合	五「センチリットル」		
一升	一「リットル」		
二升	二「リットル」		
三升	三「リットル」		
四升	四「リットル」		
五升	五「リットル」		
一斗	十「リットル」		
二斗	二十「リットル」		
三斗	三十「リットル」		
四斗	四十「リットル」		
五斗	五十「リットル」		
一石	十「石」		
二石	二十「石」		
三石	三十「石」		
四石	四十「石」		
五石	五十「石」		
一石	十「石」		
二石	二十「石」		
三石	三十「石」		
四石	四十「石」		
五石	五十「石」		

第十四類 度量衡器ノ製造及販賣免状付付表

千四百四十四

寸法ノ公差	
一升以下	0.1
二升以上	0.1
二「リットル」以下	0.1
五「リットル」以上	0.1
斗概ノ長さ(中及小ノモノヲ除ク)及徑	0.1
衡器ノ公差	
分銅五分	0.005
分銅一匁以上 五匁マテ	0.010
分銅十匁又ハ 十「グラム」以上	0.010
分銅五分又ハ 一「グラム」未滿	0.010
目盛	一度目ノ二分ノ一ニ相當スル重サ

第四條 檢定スヘキ度器、玻璃製量器ノ目盛及分銅ノ最小定限ヲ定ムルコト左ノ如シ
 度器ノ目盛 五厘 (一尺以下ノ度器)

一分	(十尺未滿ノ度器)
一寸	(十尺以上ノ度器)
鯨尺二分	(各種鯨尺度器)
一「ミリメートル」	(一「メートル」以下ノ度器)
五「ミリメートル」	(五「メートル」未滿ノ度器)
五「センチメートル」	(五「メートル」以上ノ度器)
玻璃製量器ノ目盛	
全量ノ十分ノ一	
分銅	
一厘	
一「センチグラム」	

第五條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ノ免許年限ハ十五箇年トス

第六條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ヲ願出ル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ詳記シタル營業ノ設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

製作、修繕ヲ願出ル者

- 一 製作場、修繕場ノ位置及構造
- 二 製作、修繕セントスル度量衡器ノ種類、形狀及物質

